74. スタンス　stance

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
スタンス	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　立場

用例　各党には，大別して論憲，護憲，改憲の三つのスタンス（立　場）がある。

意味説明

ものごとに対するときの立場や，取り組む姿勢

手引き

- ものごとに対する考え方を指す場合は「立場」，ものごとに取り組む態度を表す場合は「姿勢」と，言い換え語を使い分けることも効果的である。
- スポーツで，競技者の立つ位置や立ち方を指す言い方がある。言い換えの必要はないが，スポーツに縁の遠い人が相手に含まれる場合など，意味を伝えたい場合は，「立ち位置」「立ち方」などと説明を付与するとよい。

その他の言い換え語例　姿勢

【調査データ】

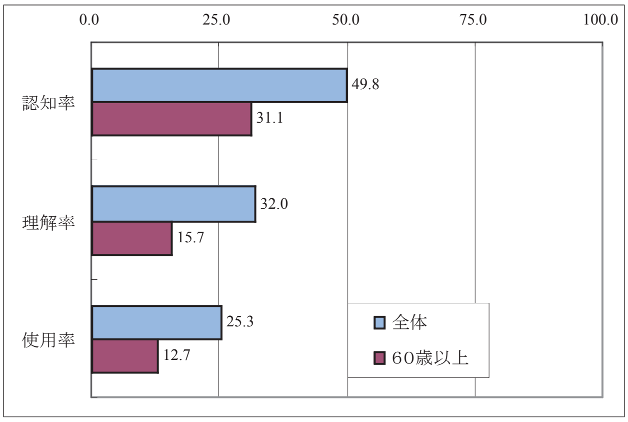

図１　定着度（全体・60歳以上）％

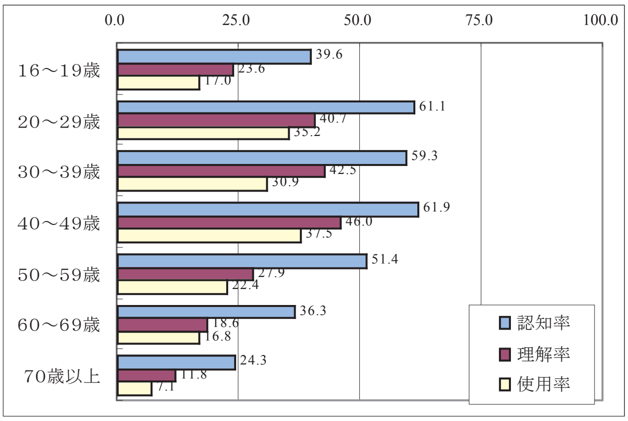

図２　定着度（年齢層別）％

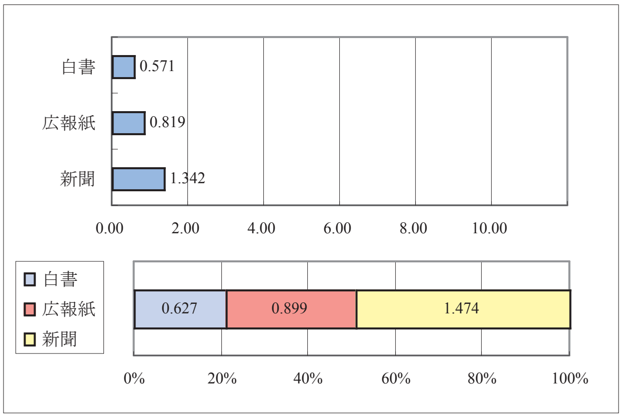

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

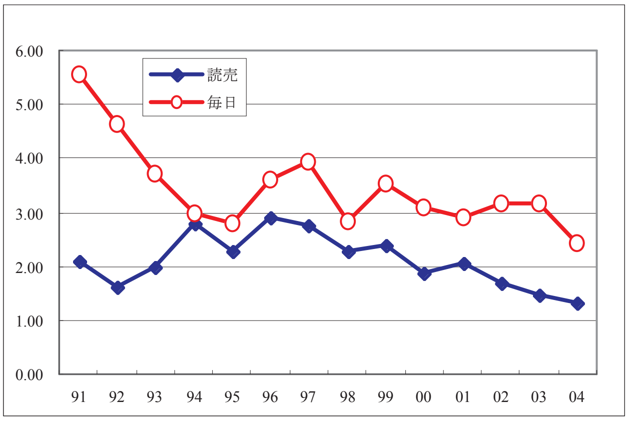

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離が大きい。40歳代が高く，60歳代が低い。
○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。
○新聞の頻度推移は，全体を通してほぼ横ばいであるが，若干減少の傾向もうかがえる。

【言い換えの論点】

○スポーツ用語としての「スタンス」にどう対応するかが議論となった。「立ち位置」「立ち方」などの言い換え語を提案すべきだという意見と，スポーツ用語は専門性が高いので，言い換えの対象にしないという意見とに分かれた。言い換え自体は提案しないが，スポーツになじみのない人に対して使う場合の言い添え例として提案するという立場を取ることとした。

75. ステレオタイプ　stereotype

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
ステレオタイプ	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　紋切り型

用例
紋切り型
ステレオタイプの日本紹介や批判ではなく，等身大で日本を理解しようという努力だ。

意味説明
ものごとの見方や表現方法が型にはまっていて新鮮味がないこと。また，その様子。

手引き
・「紋切り型」では分かりにくいと感じられる場合は，「型どおり」と言い換えることもできる。
・文脈によっては，「類型」「固定観念」「画一的」で言い換えるのが分かりやすい場合もある。
・「ステレオタイプな」の形で用いられる場合は，「紋切り型の」「型どおりな」「画一的な」などと言い換えることができる。「ステレオタイプで」は「型どおりに」「固定観念で」と言い換えることができる。

その他の言い換え語例　型どおり　類型　固定観念　画一的

複合語例
ステレオタイプ的 ＝ 類型的　画一的
ステレオタイプ化 ＝ 類型化　画一化

【調査データ】

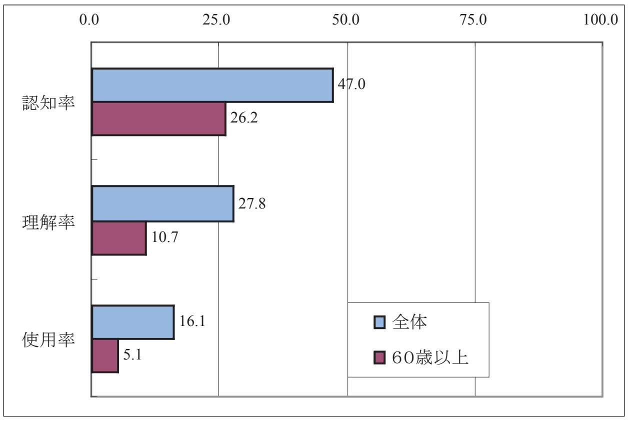

図１　定着度（全体・60歳以上）％

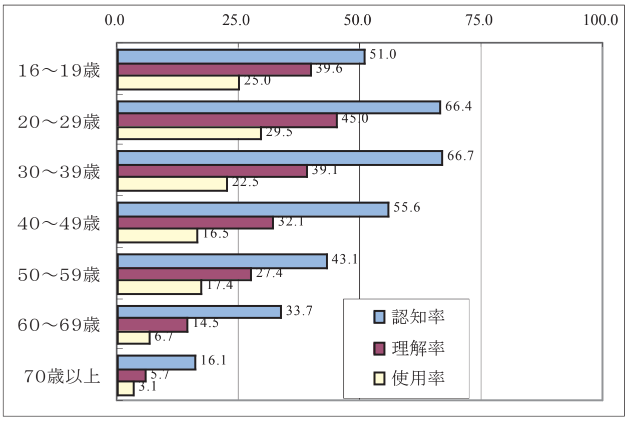

図２　定着度（年齢層別）％

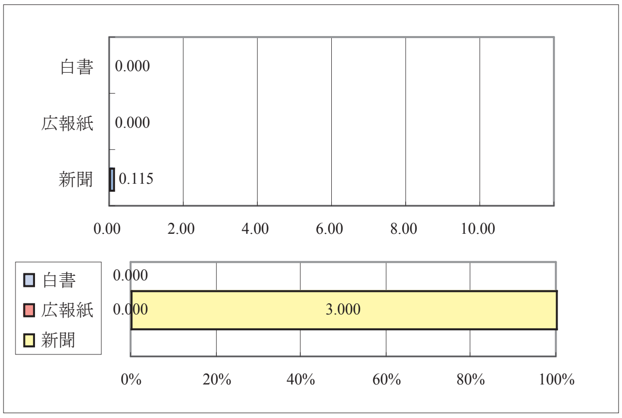

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

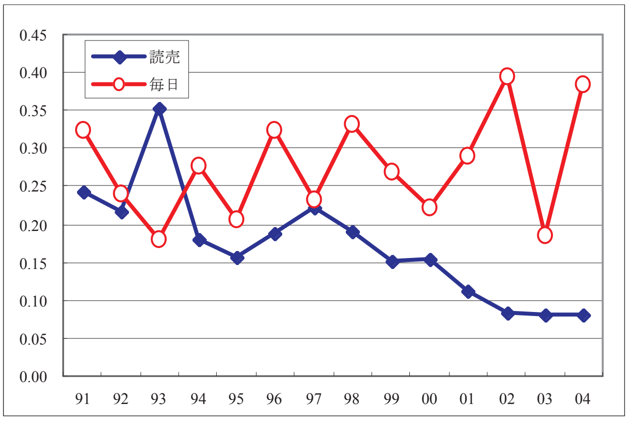

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はやや低い。20歳代が高く，60歳代が特に低い。

○公共媒体における頻度は低い。新聞への偏在度が高い。

○新聞の頻度は，読売新聞が減少の方向を示し，毎日新聞は年による変動があり明確な傾向を示さない。

【言い換えの論点】

○「ステレオタイプ」の意味を最もよく表すのは「紋切り型」である。一方，「紋切り型」はやや古風な言い方で，若い世代にはなじみが薄いという問題があり，この点に配慮すれば「型どおり」という言い換え語も適切だと考えた。

○「ステレオタイプ」には，マイナスイメージがあるので，「固定観念」「画一的」などの言い換え語が適切だという意見が，外部から多く寄せられた。「ステレオタイプ」がマイナスイメージの文脈に偏るのは確かだが，「紋切り型」も同様にマイナスイメージの文脈に偏るので，意味・用法の対応する「紋切り型」が，言い換え語として最適であると考えた。

○形容動詞用法「ステレオタイプな」「ステレオタイプで」の場合は，マイナスイメージが前面に出やすく，「ステレオタイプで」の場合は「紋切り型」が使いにくいので，「固定観念」「画一的」「型どおり」などと言い換えるべきことを，［手引き］に記した。

76. ストックヤード　stockyard

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
ストックヤード	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　一時保管所

用例　紙や缶，ビンなど資源ゴミ回収用のストックヤード（一時保管所）を併設する方向で検討を進める。

意味説明

一時的に保管しておく場所

手引き

・再利用や再生利用を目的としたごみの一時保管所を指す場合が多いが，貨物や商品などを一時的に保管する場所を表すこともある。何を保管する場所かを示し，「資源ごみの一時保管所」などと言い換える方が，分かりやすい場合もある。

その他の言い換え語例　保管所

【調査データ】

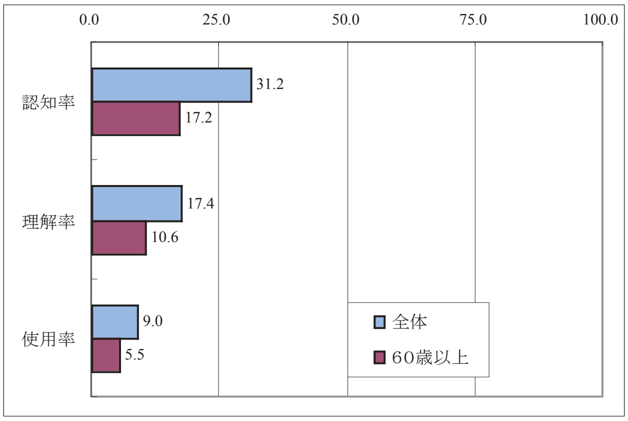

図１　定着度（全体・60歳以上）％

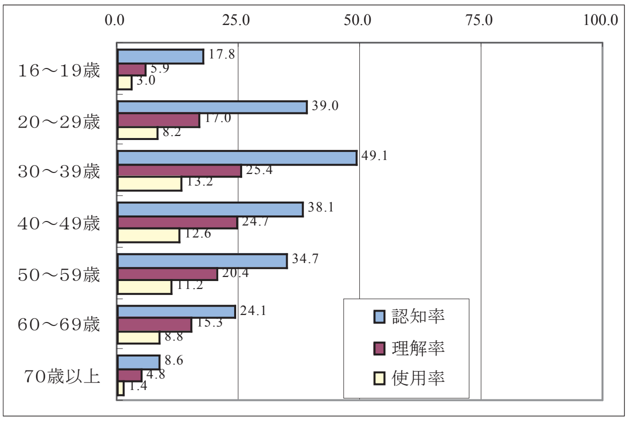

図２　定着度（年齢層別）％

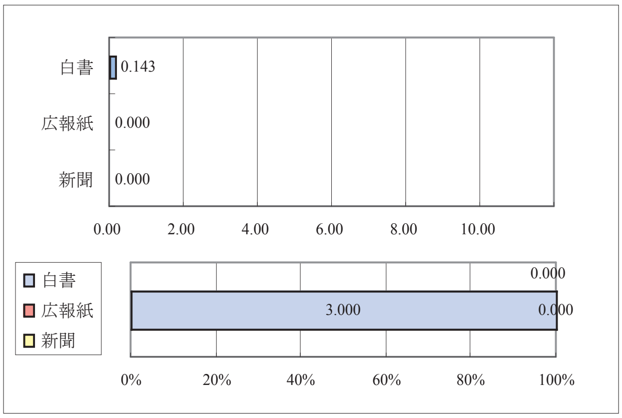

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

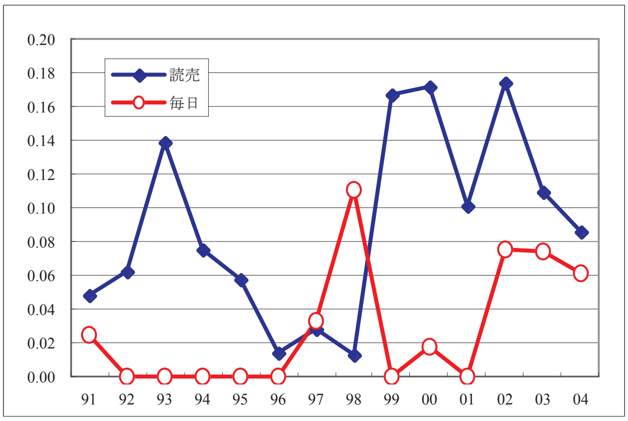

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。
○公共媒体における頻度は低い。白書への偏在度が高い。
○新聞には，使用例がきわめて少ないため，推移の傾向を見ることはできない。

【言い換えの論点】

○何かを一時的に保管しておく場所を意味する，専門性の高い用語であるが，時々白書や新聞に使われることがある。「一時保管所」「保管所」の言い換え語が考えられるが，その文脈で指している保管しておく物を具体的に示して，「〇〇の一時保管所」「〇〇の保管所」などと表現した方が分かりやすい場合も多い。この点に留意すべきことを［手引き］に記した。

77.　セーフガード　　safeguard

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
セーフガード	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　　緊急輸入制限

用例　輸入の急増によりセーフガード（緊急輸入制限）を暫定発動したねぎやトマト，ピーマン等の監視品目を主対象としつつも，

意味説明
特定の産品の輸入が急増した場合に，暫定的に輸入を制限する措置

手引き
・世界貿易機関（ＷＴＯ）で認められている措置で，輸入の急増で国内産業が打撃を受けるのを防ぐことを目的として，関税の引上げや輸入量の制限などによって実施される。
・やや長いが，「緊急輸入制限措置」と言い換えるのが正確である。

その他の言い換え語例　　緊急輸入制限措置

複合語例　　セーフガード措置　＝　緊急輸入制限措置

【調査データ】

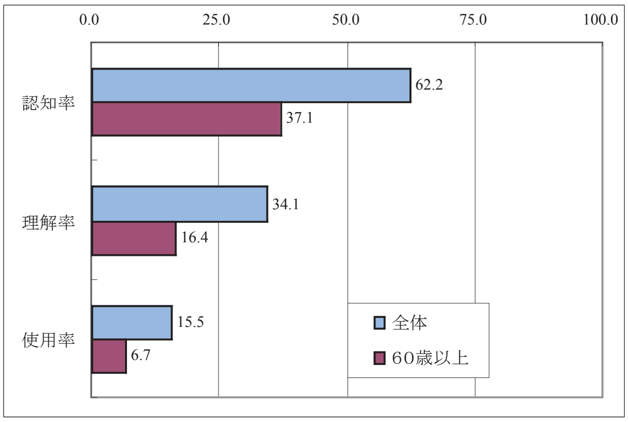

図１　定着度（全体・60歳以上）％

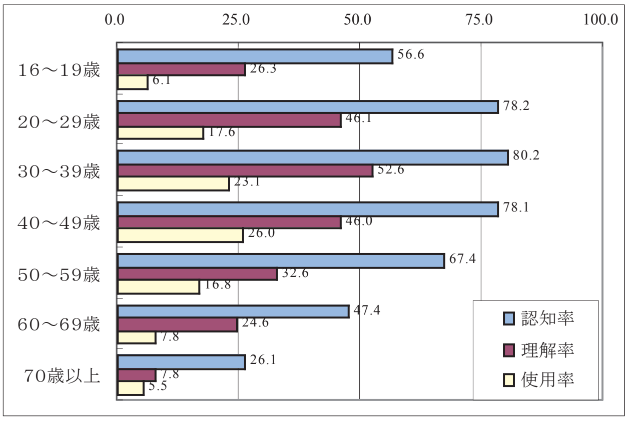

図２　定着度（年齢層別）％

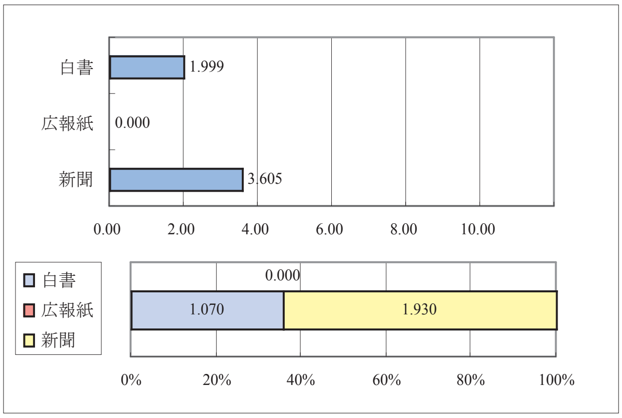

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

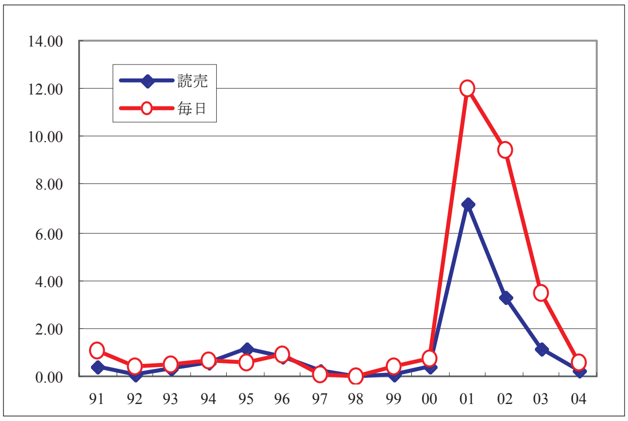

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。30歳代が高い。
○公共媒体における頻度はやや高い。新聞への偏在度がやや高い。
○新聞の頻度推移は，2001年に急増し，2003年頃まで多いが，2004年には非常に少なくなる。2001年から2003年は，日本や米国でセーフガードの措置が取られ，繰り返し報道された。

【言い換えの論点】

○「セーフ」＋「ガード」であれば，「安全保護」という言い換え語が分かりやすいが，公共媒体の「セーフガード」は，ほとんどすべてが経済用語としての例である。経済用語としての意味を明示できる「緊急輸入制限（措置）」などの語で，言い換えたり言い添えたりする工夫が必要だと考えた。

78. セーフティーネット　safety net

「外来語」言い換え提案（第２回）

	全体	60歳以上
セーフティーネット	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　安全網

用例
社会保障制度の最後のセーフティーネット（安全網）である生活保護制度がその期待される役割を適切に果たしていけるよう，

意味説明
経済的な危機に陥っても，最低限の安全を保障してくれる，社会的な制度や対策

手引き
- 社会保障制度，金融機関破綻（はたん）の際の預金者保護制度など，一部の危機が全体に及ばないようにするための安全保障制度や安全対策を指す。
- サーカスなどで落下防止のために張る網を指す語が，社会的な安全保障の制度を指すようになったもの。

その他の言い換え語例　安全保障制度　安全対策

【調査データ】

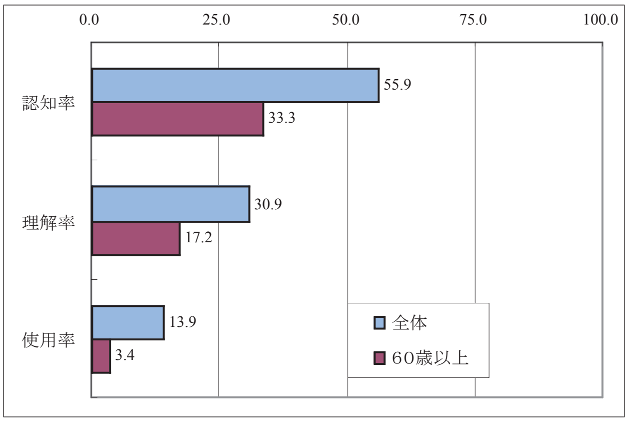

図１　定着度（全体・60歳以上）％

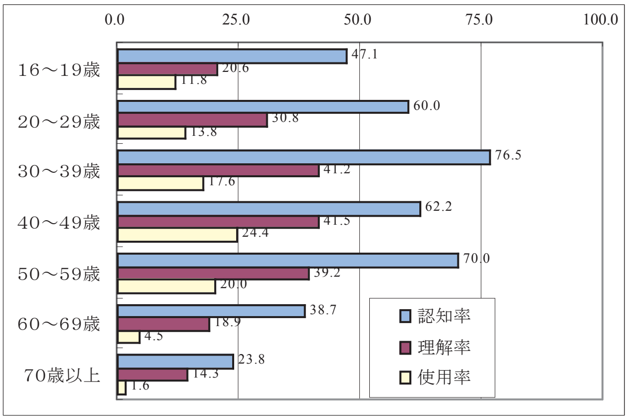

図２　定着度（年齢層別）％

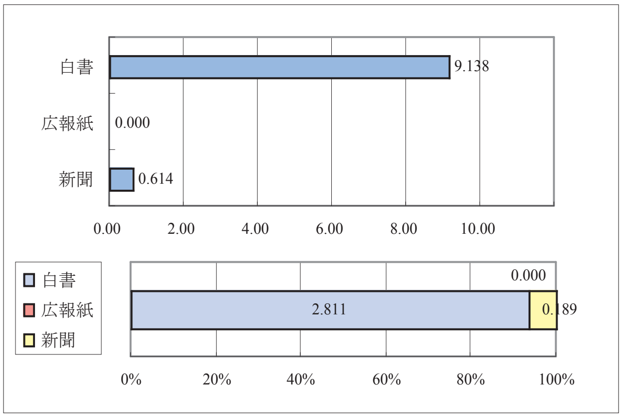

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

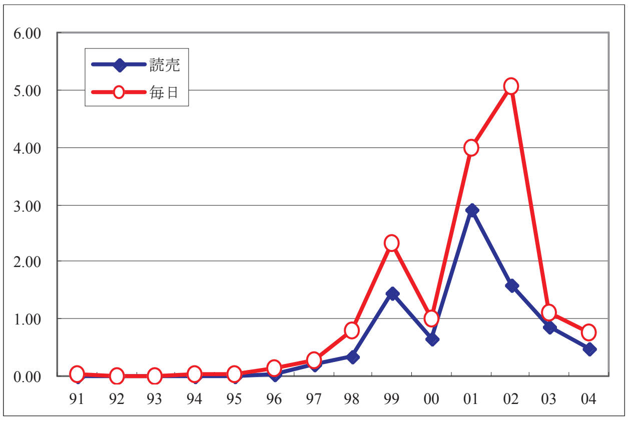

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。60歳代が低い。

○公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度推移は，1996年から増加をはじめ1999年と2001～2002年の二つを頂点に，増加から減少に転じている。

【背景事情】

○新聞の頻度推移の二つの頂点は，1999年はペイオフ解禁の論議のなかでの預金者保護制度が話題になった年，2001～2002年は雇用保険等の社会保障制度の整備が話題になった年である。いずれの年もその制度を指して「セーフティーネット」の語が使われた。

【言い換えの論点】

○言い換え語は，直訳の「安全網」とすべきという意見と，制度や対策を指すのだから，「安全保障制度」や「安全対策」などと意訳すべきだという意見とに分かれた。特定の制度や対策自体を指すわけではなく，危機的状況に陥った時に安全を保障する役割を持つ制度や対策を指すという面に着眼すれば，「安全網」という直訳の方が，仕組みや考え方をよく表していて適切だと考えた。

79.　セカンドオピニオン　second opinion

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
セカンドオピニオン	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　第二診断

用例　その病院では行っていない手術や治療法がある場合もあり，別の病院の医師からもセカンドオピニオン（第二診断）として説明を聞く事も一般的になってきた。

意味説明

はじめに相談した専門家とは別の専門家の意見を聞くこと

手引き

・「インフォームドコンセント」（納得診療・説明と同意）［⇒22］とともに，これからの医療において，重要な概念になっていくと思われるが，現状では意味を理解している人は少ないので，言い換えたり説明を加えたりすることで，この概念の定着を進めることが望まれる。

・「第二診断」の語では分かりにくいと感じられる場合は，「別の医師の意見」「主治医以外の医師の意見」などの，説明的な語句を用いるのもよい。

・医療以外に用いられる場合は，「第二意見」と言い換えることができる。また，「別の弁護士の意見」「別の専門家の意見」などの説明的な語句を用いるのもよい。

その他の言い換え語例　第二意見　別の医師の意見　別の弁護士の意見　別の専門家の意見

【調査データ】

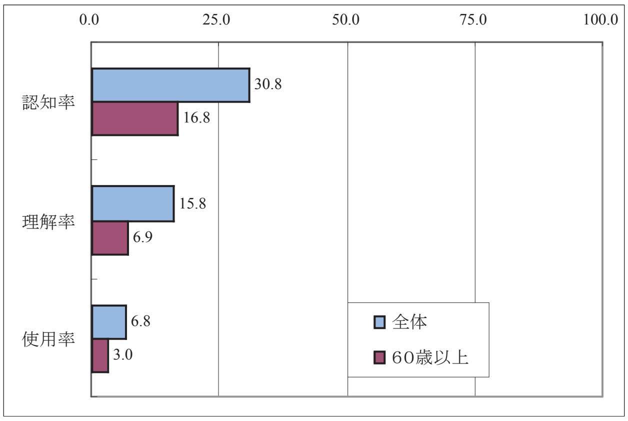

図１　定着度（全体・60歳以上）％

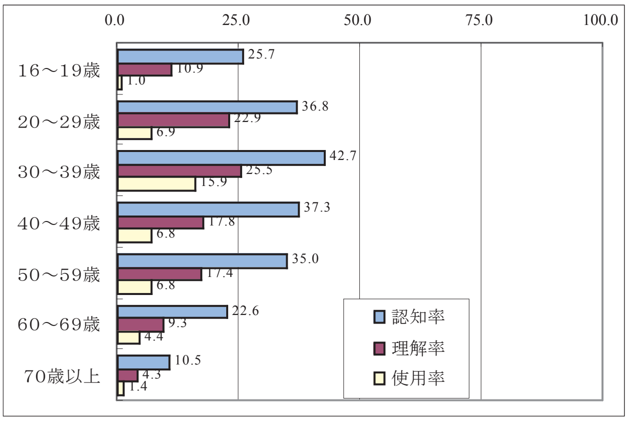

図２　定着度（年齢層別）％

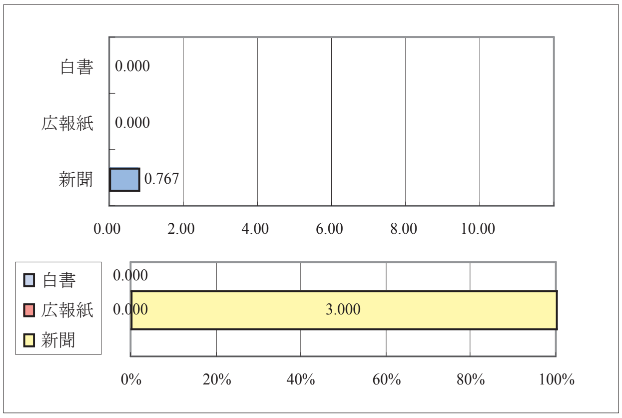

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

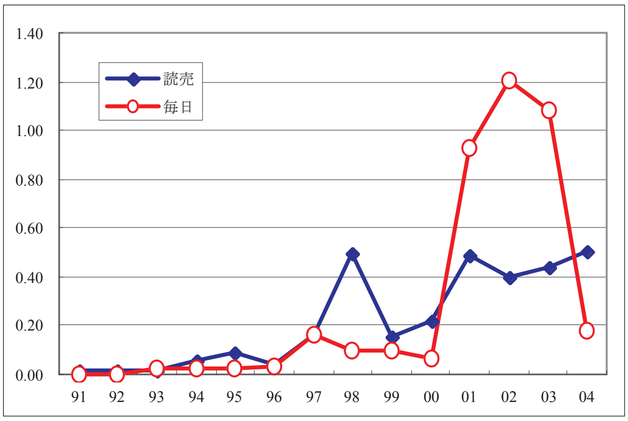

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度はやや低い。新聞への偏在度が高い。

○新聞の頻度は，1997年以後増加傾向を示し，特に2000年代になってからの増加が顕著である。

【背景事情】

○患者が自ら治療法を選び取る「インフォームドコンセント」の考え方の一般化とともに，患者の選択行為をしやすくする「セカンドオピニオン」の仕組みの整備・普及も進んできている。

【言い換えの論点】

○新しい医療の概念として，これからの社会にとって重要な語であるにもかかわらず，定着度はまだ低い。概念の定着のためにも，分かりやすい言い換えや説明の必要性は高い。

○「第二診断」という言い換え語は，「セカンドオピニオン」の概念を伝えるには，不十分であるという意見も強かったが，これに代わる適切な言い換え語の提案はなかった。「別の医師の意見」「主治医以外の医師の意見」など，意味を説明する言い換えや言い添えを行う方が，現実的な対応とも考えられるので，これを［手引き］で推奨することとした。

→参照　インフォームドコンセント

80. セキュリティー　security

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
セキュリティー	★★★☆	★★☆☆

言い換え語　安全

用例　ユーザーが個人情報の漏えいなどセキュリティー（安全）の確保について，十分注意深くなくてはならないことが基本ではある。

意味説明

犯罪などから安全を守ること

手引き

- インターネット上の侵入防止や機密保持，空港などでの危険物持ち込みの防止，家屋や施設への侵入防止，国家の安全保障など，多様な文脈で使われる。
- 「安全」の言い換え語では，意味が広すぎると感じられる場合は，文脈に応じて，その他の言い換え語例に示す語や，「侵入防止」「機密保持」「安全保障」など具体的な語で言い換えたり，これらの語を用いて説明付与を行うことも考えられる。
- 定着に向かっている語だと思われ，「セキュリティー」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし，60歳以上では半数以上が分からない語であり，言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例　安全性　防犯　保安

複合語例　サイバーセキュリティー　＝　インターネット社会の安全性
ホームセキュリティー　＝　家庭向け防犯
ナショナルセキュリティー　＝　国家安全保障

【調査データ】

○定着度はやや高い。年齢層による差異が大きい。
○公共媒体における頻度はきわめて高い。白書への偏在度が高い。
○新聞の頻度推移は，全体として増加の方向にある。

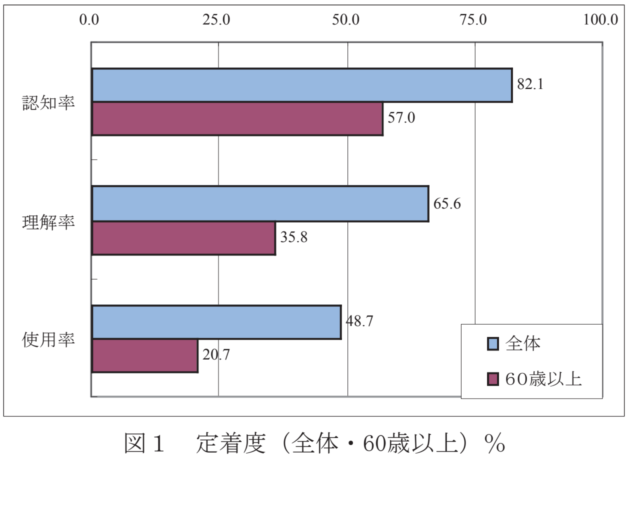

図１　定着度（全体・60歳以上）％

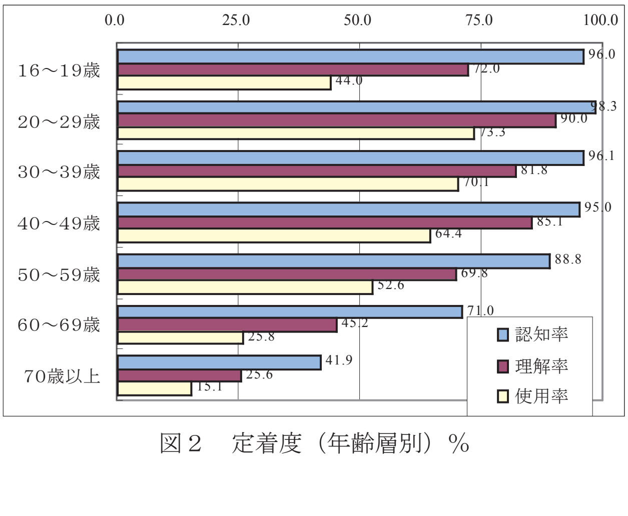

図２　定着度（年齢層別）％

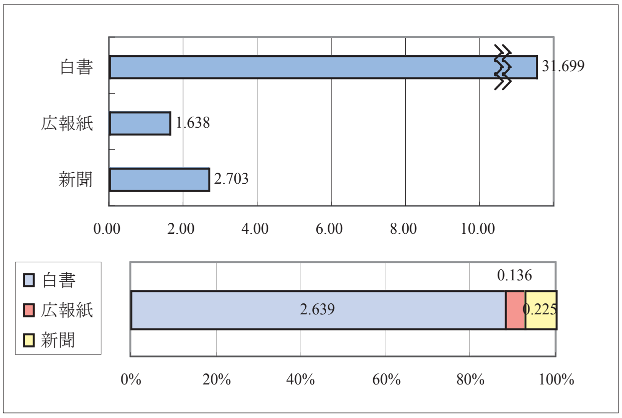

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

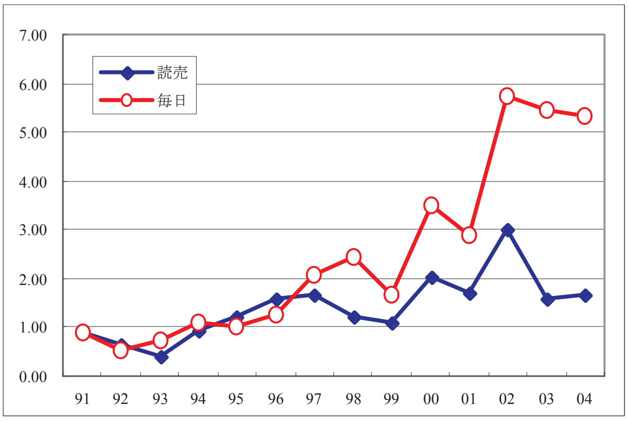

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【背景事情】

○新聞などでの使用例を見ると，1991年には，空港などでの危険物の持ち込み防止や国家安全保障の場面などで，主に使われていた。ところが最近は，家屋や施設などへの侵入防止やインターネット上での情報の機密保持などの場面でよく使われ，国民生活に密着した場面に使用範囲を拡大してきたと見ることができる。こうした使用範囲の拡大の背景には，治安の悪化や社会の情報化などの流れがあると考えられ，社会の変化に伴ってこの語の定着が進んできているものと推測される。

【言い換えの論点】

○定着は進んできているが，使用範囲の拡大に伴って，意味がやや曖昧になってきている。「安全」という言い換え語では，意味が広過ぎるという問題を指摘する意見があった。その場合は，文脈に応じて，「防犯」「保安」「侵入防止」「機密保持」などの言い換え語を，使い分けることが効果的だと考えられるので，この点を[手引き]に記した。

81．セクター　sector

「外来語」言い換え提案（第２回）

	全体	60歳以上
セクター	★★☆☆	★★☆☆

言い換え語　部門

用例　これまで非競争的で政府依存度の高かったセクター（部門）は，今後抜本的なリストラを余儀なくされ，自己責任と自立を迫られることになる。

意味説明

産業などにおいて，幾つかに部門を分けたときの一つ

手引き

・「第三セクター」という形で目にすることが多いが，必要に応じて「半官半民」「半官半民企業」などと言い換えることができる。

・航空管制の専門語で「セクター」と言われることがあるが，一般向けには「区域」などと言い換えるか，説明を加えることが望ましい。

その他の言い換え語例　区域

複合語例　第三セクター　＝　半官半民　半官半民企業

【調査データ】

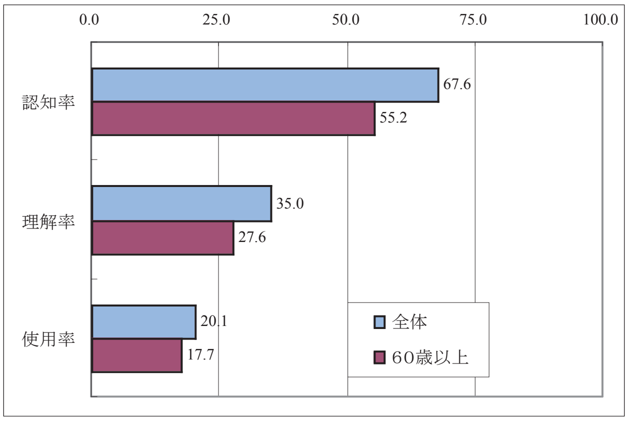

図１　定着度（全体・60歳以上）％

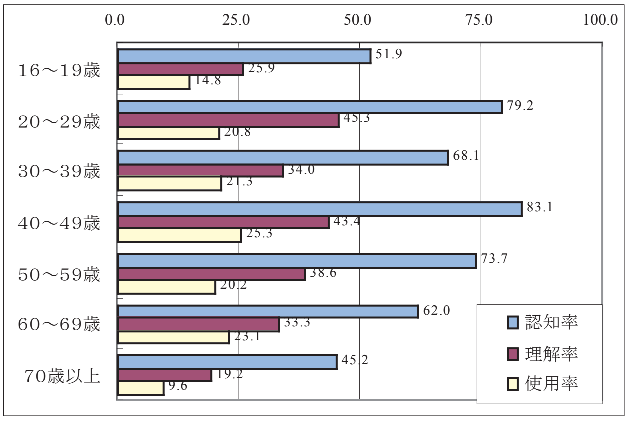

図２　定着度（年齢層別）％

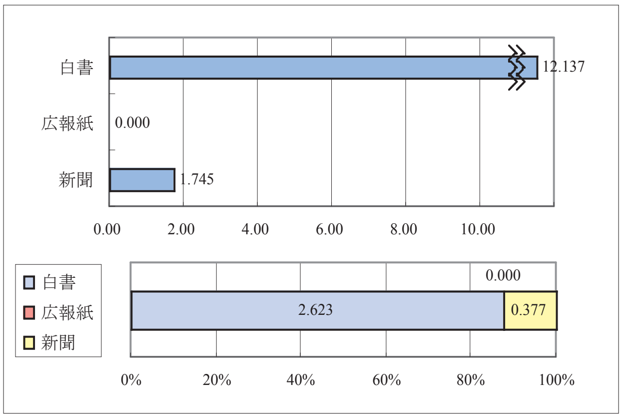

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

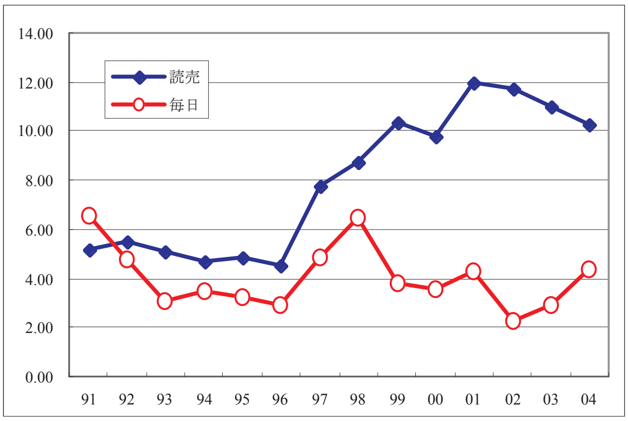

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はやや低い。認知率と理解率の乖離がかなり大きい。年齢層による差異はあまりない。

○公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度が高い。

○新聞の頻度推移は，毎日新聞ではほぼ横ばい，読売新聞では1990年代後半に増加が見られる。読売新聞の増加は，「第三セクター」の語の増加によるものである。

【言い換えの論点】

○新聞の用例の多くを「第三セクター」が占める。「第三セクター」自体を言い換えることは難しいが，意味を説明する必要のある場合は多いので，［手引き］と［複合語例］に対応方法を記した。

○白書の用例の多くは「第三セクター」以外の「セクター」が占める。この用法は分かりにくく，言い換える必要性が特に高いと考えられる。

82. セットバック　setback

「外来語」言い換え提案（第３回）

セットバック　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　壁面後退

用例　ここには公園を配置したうえ，ビルのセットバック（壁面後退）による植樹も義務付けた。

意味説明
建物を道路などから後退させて，建てること。また，建物の上の階を下の階より後退させて，建てること。

手引き
- 道路幅を広くしたり，日照や通風をよくするために採られる，建築方法を指す語。
- 建物全体を道路から後退させることと，建物の上の階を下の階より後退させて建てることとを区別したい場合，前者は「敷地後退」，後者は「後退建築」と，言い換え語を使い分けることもできる。また，いずれの場合も，文脈によっては単に「後退」と言い換える方が分かりやすい場合も多い。
- 「セットバックする」という形で用いられる場合は，「壁面後退させる」「敷地後退させる」「後退させる」などと言い換えることができる。

その他の言い換え語例　敷地後退　後退建築　後退

【調査データ】

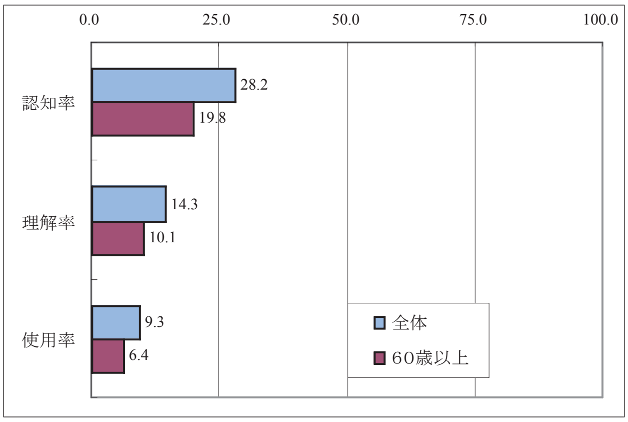

図１　定着度（全体・60歳以上）％

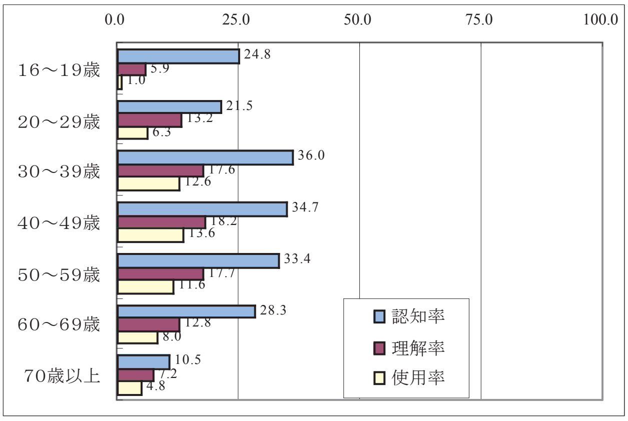

図２　定着度（年齢層別）％

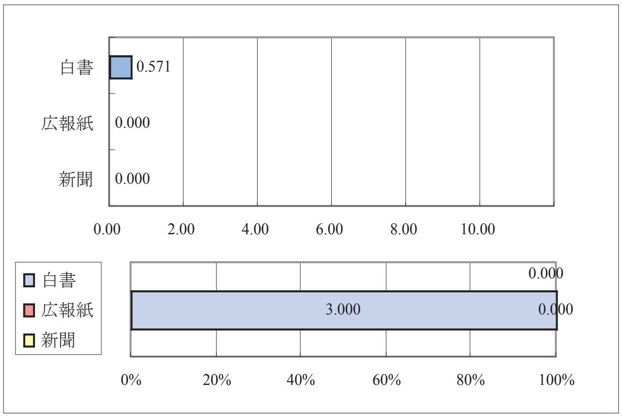

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

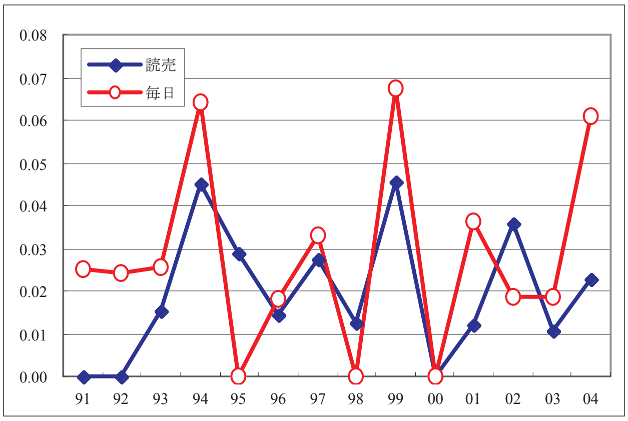

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。
○公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度が高い。
○新聞には，使用例がきわめて少ないため，推移の傾向を見ることはできない。

【言い換えの論点】

○建物を道路などから後退させて建てることと，建物の上の階を下の階より後退させて建てることとを，まとめた言い換え語とするか，区別するかを議論した。建物の壁面を後退させるという点では共通するので，言い換え語は「壁面後退」にまとめたが，文脈によっては二つの意味を区別した言い換えの方が分かりやすくなる場合もあることを，［手引き］［その他の言い換え語例］に記した。

83.　ゼロエミッション　　zero-emission

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
ゼロエミッション	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　　排出ゼロ

用例　医薬品メーカーの工場は一部の有機排水を焼却するしか処理方法が無く，ゼロエミッション（排出ゼロ）の達成が困難な例が多かった。

意味説明

工場などで排出物をゼロにすること

手引き

・ある産業での廃棄物を，別の産業の原料として使うことなどにより，排出物をゼロにしていく考え方を指す。

・1990年代の半ばに国連大学が提唱した概念として，一般にも広まり始め，国や自治体，企業にも取組が広がってきている。循環型社会の実現のための重要概念であるが，定着させるためには，言い換えや説明付与が望まれる。

・「排出」「再利用」「廃棄物」のどこに着眼するかで，その他の言い換え語例に示すように，幾通りかの言い換えが考えられるが，「排出」を問題にするところが根本にある。

その他の言い換え語例　廃棄物ゼロ　ごみゼロ　完全再生利用　完全リサイクル

【調査データ】

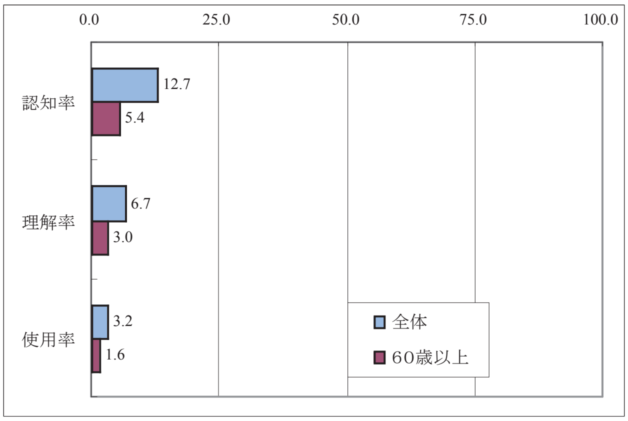

図１　定着度（全体・60歳以上）％

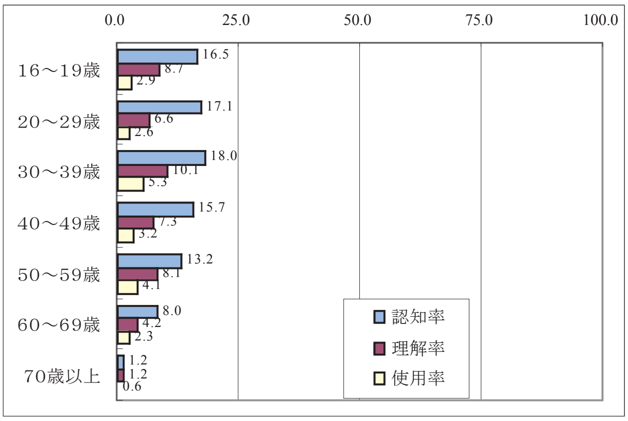

図２　定着度（年齢層別）％

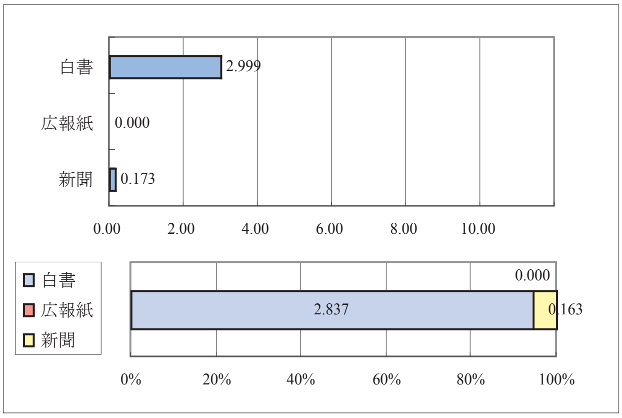

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

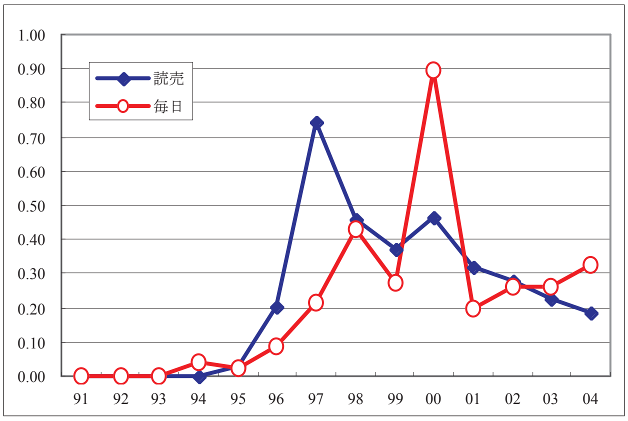

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はきわめて低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度は，1990年代の後半に登場し急増する。その後やや減少して，2000年頃からは横ばいである。1990年代後半の増加期に，読売新聞と毎日新聞とで増加の時期がずれるのは，この語が取り上げられる記事が特集記事に偏ることによるものである。

【背景事情】

○政府や国連大学が打ち出しているゼロエミッション構想により，徐々に目に触れる機会が増えている言葉であり，環境保全における重要概念になり得るものと考えられる。白書への偏在度がきわめて高いように，現段階では学術や行政の分野で提唱されている専門性の高い概念である。

【言い換えの論点】

○ある産業の廃棄物を，別の産業の原料として再利用し，最終的に排出物をゼロにしようという意味を持つ語。「排出ゼロ」というところに意味の本質があるので，これを言い換え語とするのが端的でよい。しかし，現実には「排出ゼロ」を実現することは困難で，それを目指す理念を表している場合が多い。むしろ，廃棄物をゼロにすること，完全に再利用すること，といった，概念の一部に着目して言い換えた方が，分かりやすい場合もある。その場合に効果のある言い換え語も，［その他の言い換え語例］や［手引き］に提示した。

84.　センサス　census

「外来語」言い換え提案（第４回）

	全体	60歳以上
センサス	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　全数調査　大規模調査

用例　国勢調査など公式のセンサス（全数調査）のデータを地図に表現した

同省が開発したセンサス（大規模調査）の手法は，

意味説明

人口や産業など，国や地域の様々な側面に関して，調査対象のすべてを調べる統計調査。また，それと同程度の大規模な調査。

手引き

・調査対象をある方針によって抽出して調査を行う「抽出調査」あるいは「標本調査」に対して，すべての対象を調査する「全数調査」を指して，「センサス」と言うのが一般的である。

・標本調査であっても非常に大規模で，全数調査と同程度の詳しい結果が得られる調査を「センサス」と呼ぶことがある。「大規模調査」は，その場合の言い換え語である。また，全数でないことを示して「大規模標本調査」と言い換えることもできる。

・「センサス」は，総務省が５年ごとに実施する最大規模の調査を指して使われることがあるが，この場合は「国勢調査」の語が定着している。

・全国規模の調査であることを示したい場合は，「全国調査」と言い換えることもできる。

・「〇〇センサス」などの調査名を引用する場合なども，「〇〇についての全数調査」「〇〇についての大規模調査」「〇〇全国調査」などと，説明を付与することが望まれる。

その他の言い換え語例　大規模標本調査　国勢調査　全国調査

【調査データ】

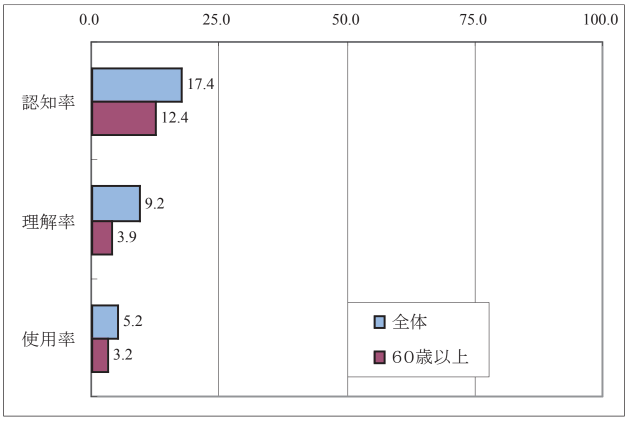

図１　定着度（全体・60歳以上）％

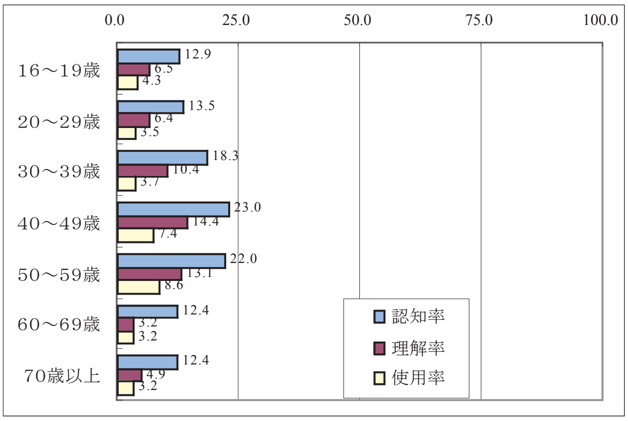

図２　定着度（年齢層別）％

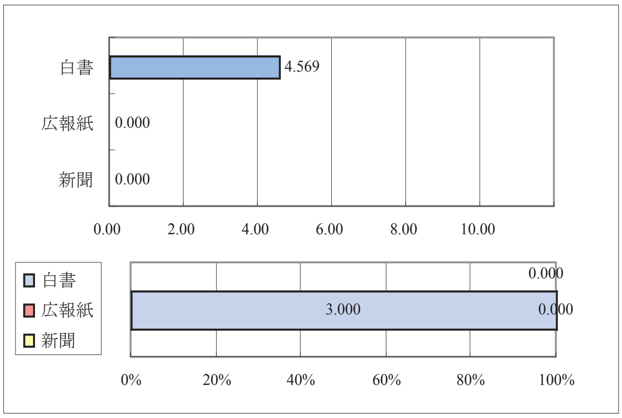

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

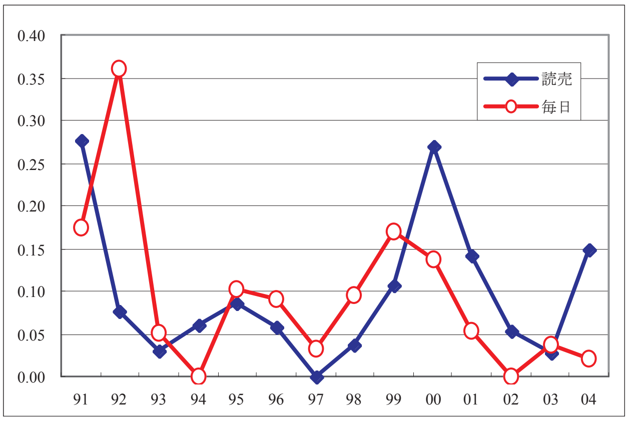

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

〇定着度はきわめて低い。

〇公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。

〇新聞の頻度推移に，全体を通した増減の傾向はない。定着に至らない段階で不安定な使用状況にある。

【背景事情】

〇新聞での使用例は，ほとんどすべて政府や関係機関の調査の引用である。白書への偏在度がきわめて高いことからも分かるように，省庁用語であると言える。

【言い換えの論点】

○「センサス」の概念の中核は，「全数」であることか「大規模」であることかについて，意見が分かれた。政府統計の専門家への聴き取りでも，意見が分かれた。「センサス」の名で呼ばれている調査各種を調べると，調査対象に定めた範囲の全数を調べることを原則としつつ，それと同程度の詳しい結果が得られる標本調査も指していることが分かった。したがって，「全数調査」を［言い換え語］として，「大規模標本調査」を［その他の言い換え語例］に掲げるのが，現実に使いやすい手引きになると考えた。

85. ソフトランディング　soft landing

「外来語」言い換え提案（第４回）

	全体	60歳以上
ソフトランディング	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　軟着陸

用例　この対立をソフトランディング（軟着陸）させるには政治の力が欠かせない。

意味説明

高揚した状態から安定した状態に緩やかにもっていくこと

手引き

・本来は，ロケットが月面等に激突しないで緩やかに着陸することを指す語であるが，経済用語として，高度成長から安定成長に緩やかにもっていくことを表す語として広まった。さらに，状況の改変を緩やかに進めて安定させるという意味で，経済以外の分野でも広く用いられている。

・反意語「ハードランディング」は，「強行着陸」と言い換えられる。

【調査データ】

○定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。

○新聞の頻度は1998年に突出するが，米国や日本の経済政策について「ソフトランディング」が話題になったことによるものである。この年以外では低い頻度で，増減の方向は見られない。

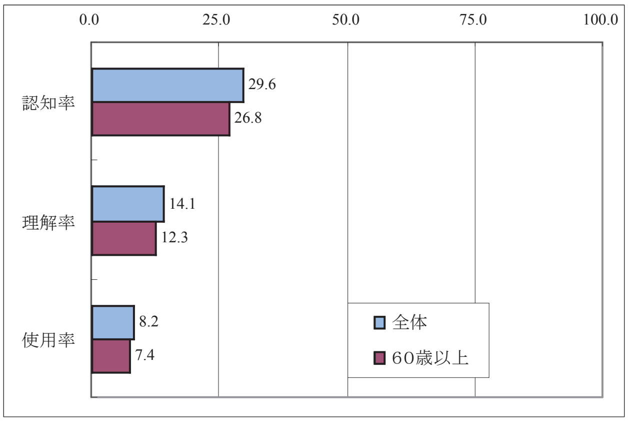

図１　定着度（全体・60歳以上）％

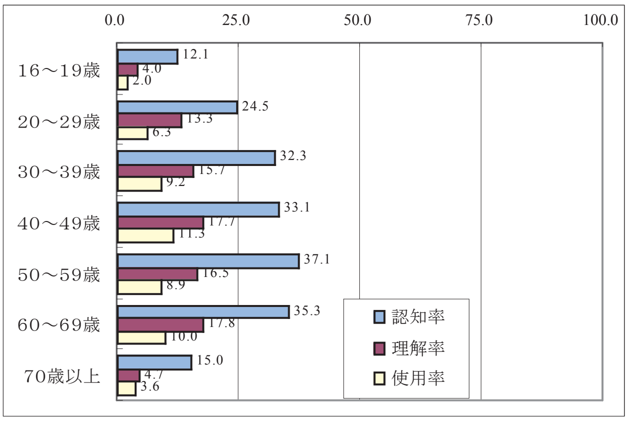

図２　定着度（年齢層別）％

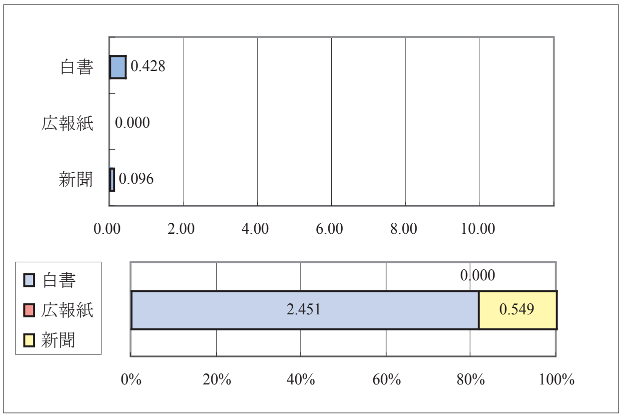

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

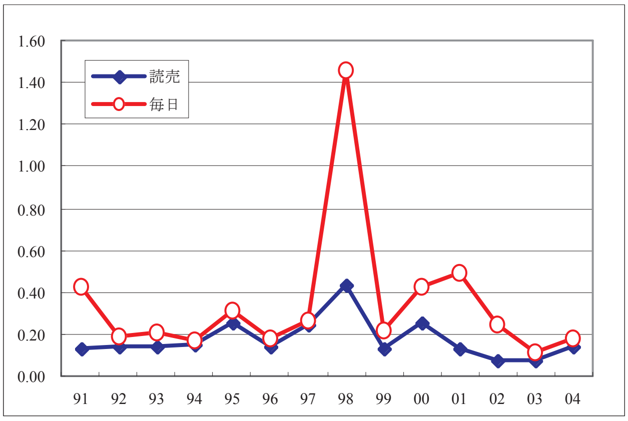

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○「軟着陸」は，言い換え語として意味も適切であり，実績もある。この語を推奨することで問題はない。

86.　ソリューション　solution

「外来語」言い換え提案（第３回）

ソリューション　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　問題解決

用例　技術チーム責任者としてソリューション（問題解決）の実現に対する総責任をもち

意味説明

顧客の抱える問題に解決策を提案し，問題解決を支援すること

手引き

- 文脈によっては，「解決支援」あるいは「解決策」と言い換えたり説明を付けたりする方が分かりやすい場合がある。
- 「ソリューション事業」「ソリューションビジネス」「ソリューションサービス」などの複合語として使われる場合が多いが，その場合は，「問題解決型事業」「解決支援事業」「解決支援サービス」などと，言い換えたり説明を付与したりすることができる。
- 会社名や事業名，部署名として使われることが多いが，理解度は低い語であるので，相手や場面に応じて説明を付与することが必要である。

その他の言い換え語例　解決支援　解決策

複合語例

ソリューションビジネス　＝　問題解決型事業
ソリューションサービス　＝　解決支援サービス

【調査データ】

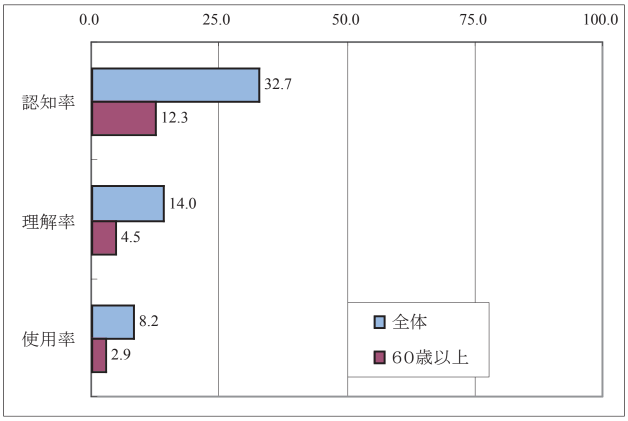

図１　定着度（全体・60歳以上）％

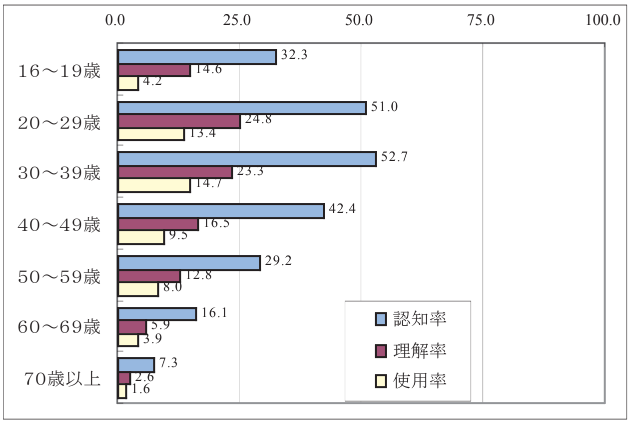

図２　定着度（年齢層別）％

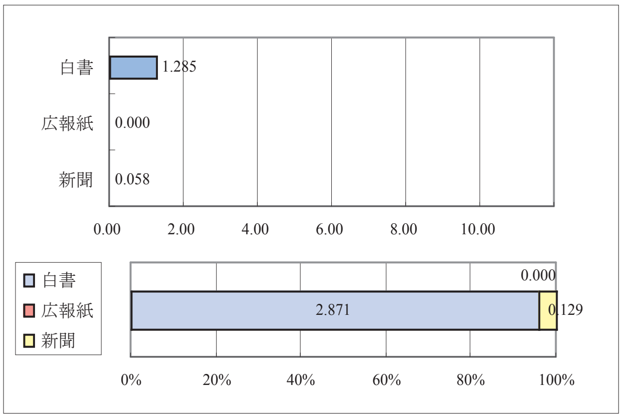

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

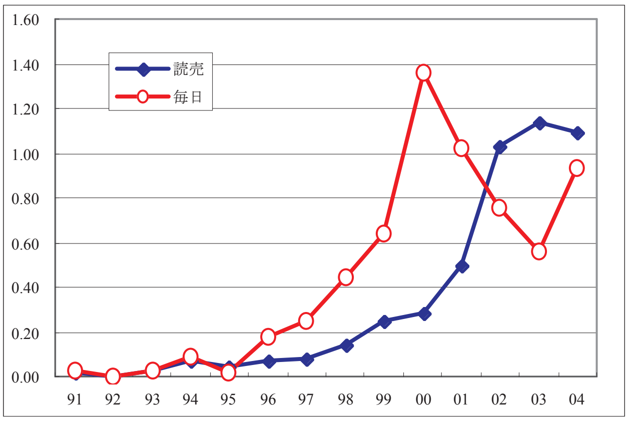

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度推移は，1996年ごろから増加の方向にある。毎日新聞では2000年に頂点に達し，以後はほぼ減少の方向にある。読売新聞は2001年以後も上昇を続ける。なお，読売新聞では，同社主催の「日本学生科学賞」に「ソリューション部門」を設けたことで，この賞にかかわる記事での使用数の増加が2002年以後の高頻度に反映している。この点を除けば，新聞の頻度は2000～2001年頃に頂点に達したと見られる。

【背景事情】

○コンピュータービジネスの分野において，顧客の抱えている問題を解決するサービスを提供する事業を指すのが，最も多い用法である。企業活動の新機軸として伸張した事業である。

【言い換えの論点】

○企業名や企業内の部署名として使われているので，言い換えはなじまないという意見と，コンピュータービジネス以外にも転用されて用法が拡大しているので，言い換えの必要性は高いという意見とがあった。認知率と理解率の乖離が大きく，白書に偏在するという実態から見ても，公共媒体での分かりにくい外来語という性格は強い。提案に取り上げ，場合によっては，固有名詞にも説明を付ける必要性が高いことを，［手引き］に触れた。

87. タイムラグ　time lag

「外来語」言い換え提案（第１回）

タイムラグ　　全体 ★☆☆☆　　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　時間差

用例　景気が上向いてから雇用が回復するまでには通常，半年ほどタイムラグ（時間差）がある。

意味説明

二つの事柄の間に生じる時間のずれ

手引き

・「タイムラグが出る」など，文脈によって，「遅れ」で言い換えられる場合もある。

その他の言い換え語例　遅れ

【調査データ】

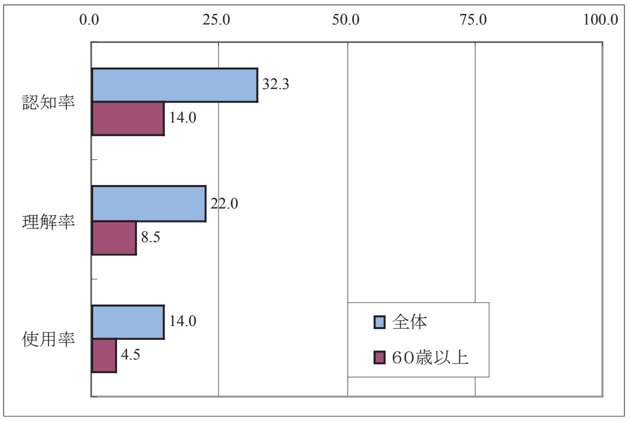

図１　定着度（全体・60歳以上）％

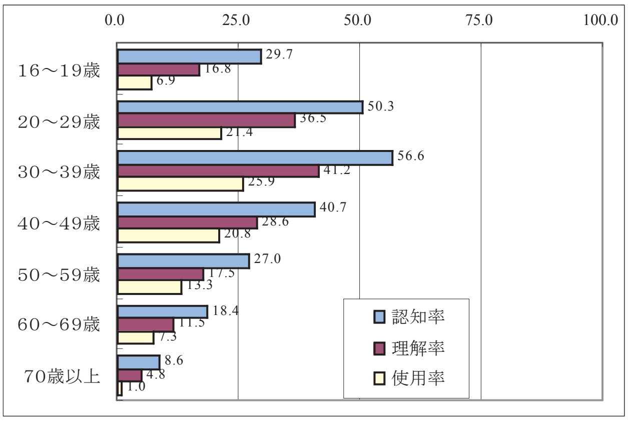

図２　定着度（年齢層別）％

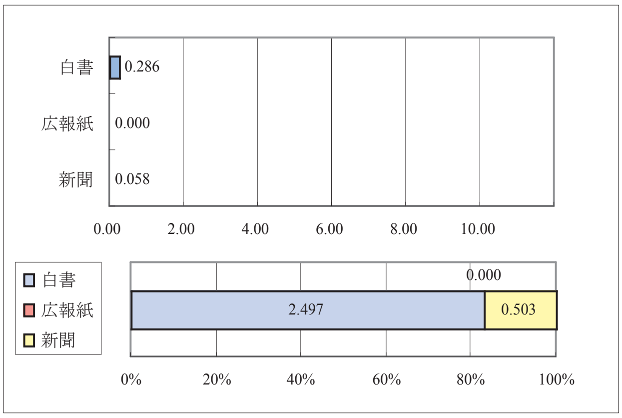

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

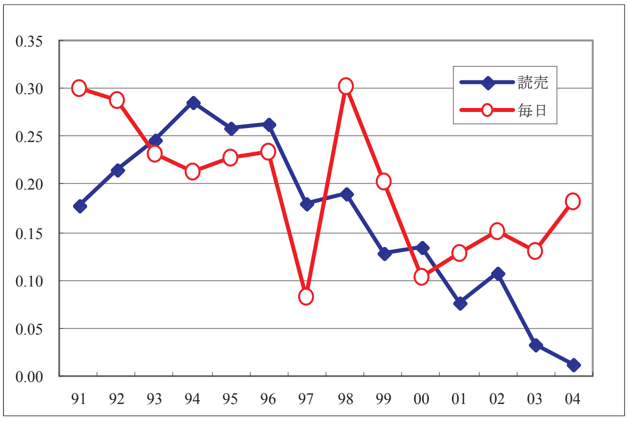

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。

○公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。

○新聞には，使用例が少ないため，推移の傾向を見ることはできない。ただ，読売新聞では，1990年代前半まで増加するが，それ以後は減少の方向が見て取れる。

【言い換えの論点】

○言い換え語は「時間差」で問題ない。ただ，実際の使用場面では，時間差は前へではなく後へ生じるので，「遅れ」と言い換えた方が分かりやすくなる文脈も多い。この点に留意して，［手引き］と［その他の言い換え語例］を記した。

→参照　リアルタイム

88．タスク　task

「外来語」言い換え提案（第２回）

タスク　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　作業課題

用例　金銭的な手当だけでなく，社員の達成感を引き出す点を重視している。難しいと思われるタスク（作業課題）をあえて与え，挑戦してもらう。

意味説明
処理しなければならない作業課題

手引き
・文脈によって，単に「課題」「作業」「処理」で言い換えることのできる場合もある。

その他の言い換え語例　課題　作業　処理

複合語例　マルチタスク　＝　多重処理　複数作業の同時処理

【調査データ】

○定着度は低い。

○公共媒体における頻度は低い。新聞への偏在度が高い。

○新聞の頻度推移に，全体を通した増減の傾向はない。定着に至らない段階で不安定な使用状況にある。

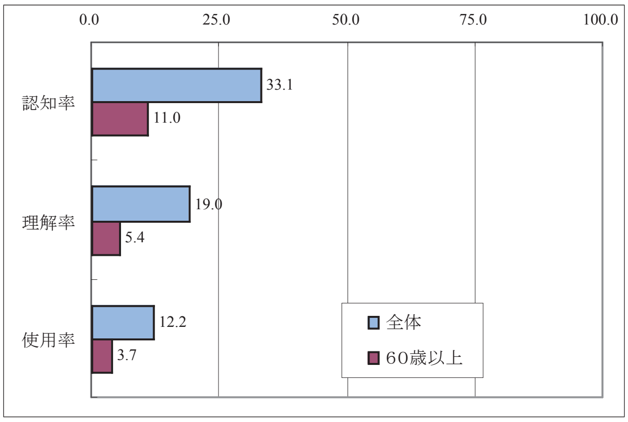

図１　定着度（全体・60歳以上）％

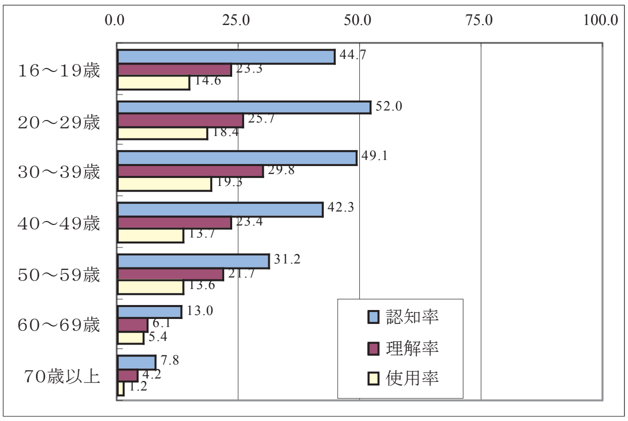

図２　定着度（年齢層別）％

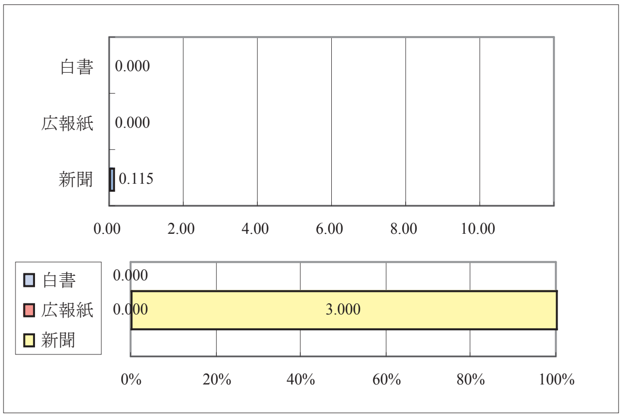

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

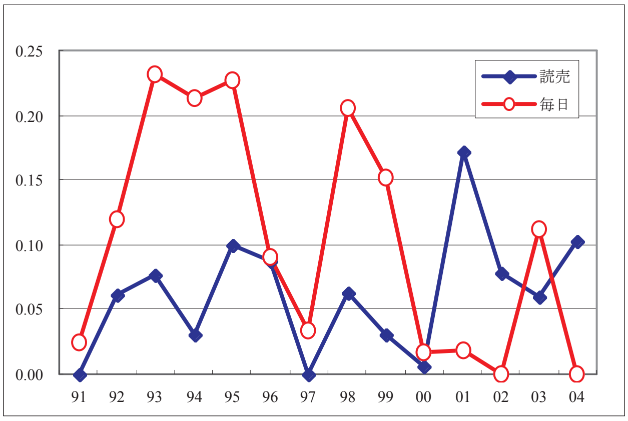

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○コンピューター用語として使われることも多いが，その場合の言い換えは難しいという意見が強く，コンピューター以外の分野を想定して言い換えを提案した。

○「作業課題」の言い換え語がもっとも意味が近いが，実際の文脈では，単に「課題」「作業」と言い換えた方が分かりやすい場合も多い。この点を，［手引き］に記した。

89.　タスクフォース　　task force

「外来語」言い換え提案（第２回）

	全体	60歳以上
タスクフォース	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　　**特別作業班**

用例　ＥＵはサミットで為替安定の抜本策を探る，ＥＵと先進七か国によるタスクフォース（特別作業班）の設置を提案する。

意味説明

特定の課題について短期間で解決を図るために，特別に編成された集団

手引き

・委員会などの中で具体的な作業や調査を行う「ワーキンググループ」[⇒173]は「作業部会」，新しい企画に向かって活動を行う「プロジェクトチーム」は「企画部会」と，言い換えられる。

【調査データ】

○定着度はきわめて低い。

○公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度推移は，毎日新聞の2002〜2003年で突出しているが，小泉純一郎首相の外交助言機関「対外関係タスクフォース」に言及する用例が大部分を占める。突出部分以外は，全体として増減の方向は見られない。

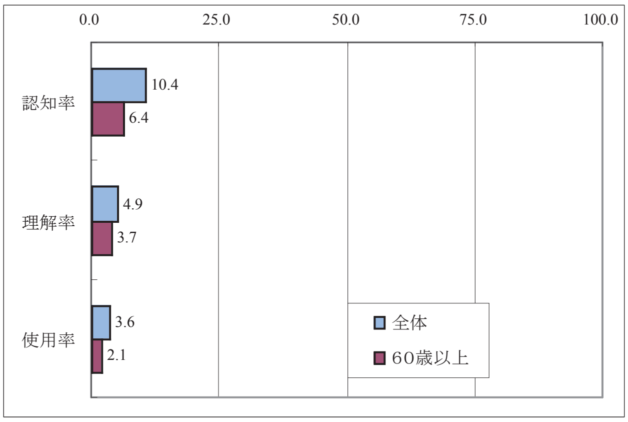

図１　定着度（全体・60歳以上）％

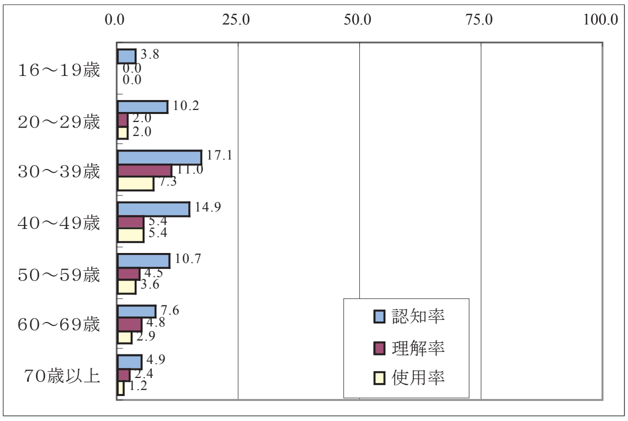

図２　定着度（年齢層別）％

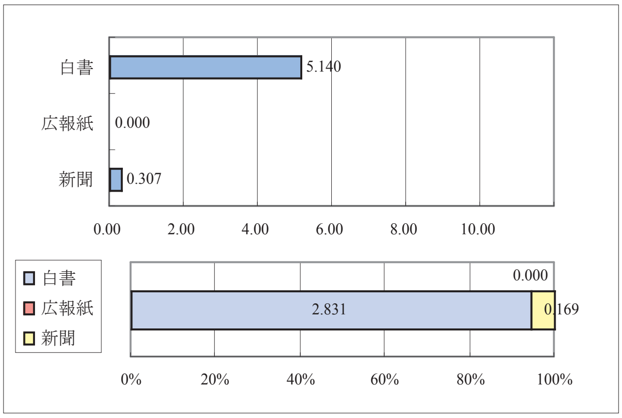

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

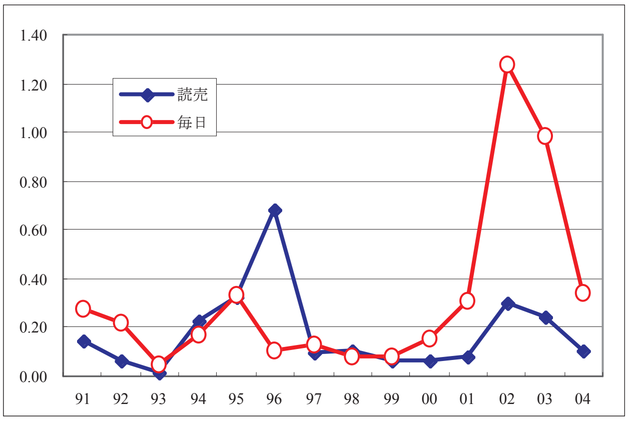

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○類義の「ワーキンググループ」（作業部会）に比べて，特別な任務を与えられて作業を行う，少人数の班といった意味合いが強いと考えられる。その意味特徴を生かすと，「特別作業班」という言い換え語が，最も適切だと考えた。

→参照　ワーキンググループ

90．ダンピング　dumping

「外来語」言い換え提案（第２回）

	全体	60歳以上
ダンピング	★★☆☆	★★★☆

言い換え語　不当廉売

用例　第三世界の市場で，欧米諸国の余剰農産物のダンピング（不当廉売）を中止することだ。

意味説明

公正な競争を妨げるほど不当に安い価格で販売すること

手引き

- 外国との貿易で，国内価格より大幅に安く販売することをいう場合が多い。
- 「不当廉売」と言い換えるのが分かりやすいが，「不当廉売」は，外国との貿易とは無関係に，法律用語として厳密な定義を持って用いられることもある。法律に照らした議論をする場合など，「ダンピング」の意味を厳密に伝えたい場合は，言い換えではなく，むしろ説明を付与して用いることが必要である。
- 最近になって，以前よりも使われることの少なくなってきた語であり，全体よりも60歳以上の方が理解度が高く，分かりにくい外来語の中では特異な語である。国民の半数以上が意味の分からない語であるので，言い換えや説明が必要になる場合も多い。

【調査データ】

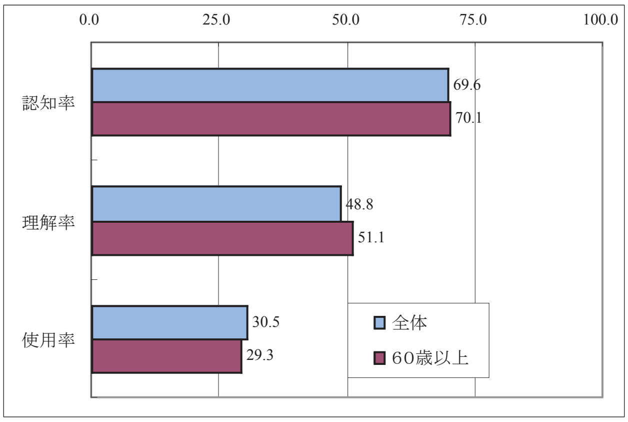

図１　定着度（全体・60歳以上）％

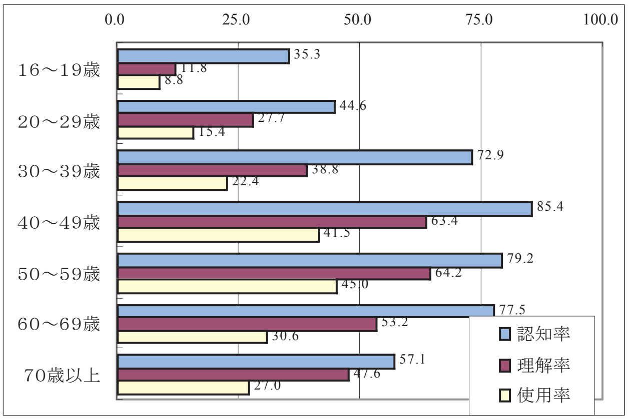

図２　定着度（年齢層別）％

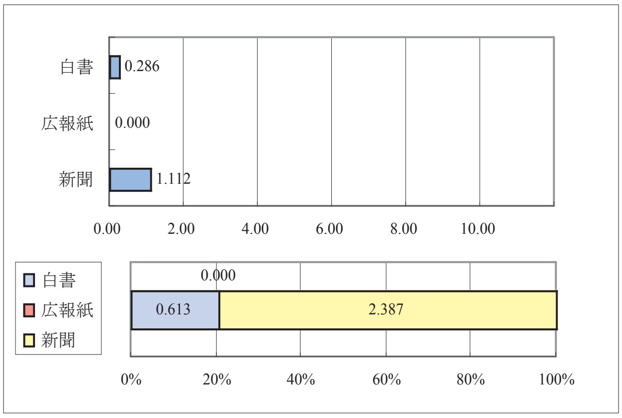

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

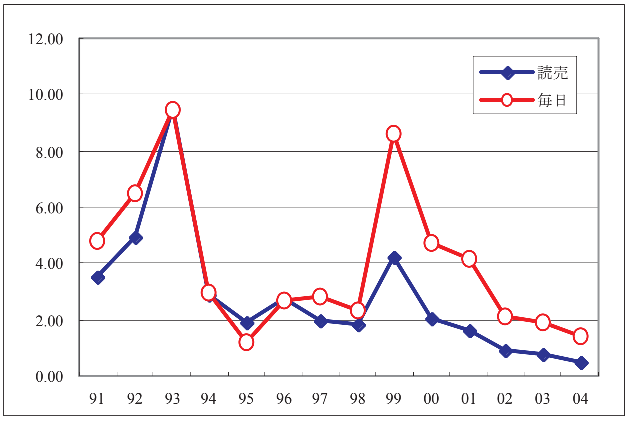

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は中程度だがどちらかといえば低い。20歳代が低い。全般に上の年齢層で定着度が高く，外来語の中では特異な存在である。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。新聞への偏在度がやや高い。

○新聞の頻度は，1993年と1999年とが突出するが，いずれも，鉄鋼業界のダンピング問題が起こった年で，繰り返し報道された。それ以外はほぼ横ばいである。2000年代にはゆるやかな減少傾向も見られる。

【言い換えの論点】

○「不当廉売」という言い換え語が定着しており分かりやすいが，「不当廉売」は，独占禁止法では「ダンピング」とは別の概念として，規定されてもいる。このことに注意しつつ言い換えをする必要のあることを，［手引き］に記した。

91．ツール　tool

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
ツール	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　道具

用例　インターネットはますます生活から切り離せないツール（道具）となることが見込まれている。

意味説明
目的の実現のための便利な道具

手引き
・ある目的を実現するために有効な，具体的な手だての意味で用いられることもあり，その場合は，「手段」と言い換えたり説明を付けたりするのが分かりやすい。
・コンピューターのプログラムやソフトウェアを指して使われることもあるが，分かりにくいと感じる人も多いので，場合によって「道具」などの言い換え語で説明を付ける配慮も必要である。
・「〇〇ツール」という形で，〇〇をするための道具や手段という意味の，複合語として用いられることが多いが，「〇〇の道具」「〇〇手段」などと言い換えたり，説明を付与したりすることができる。

その他の言い換え語例　手段

複合語例　支援ツール　＝　支援の道具　支援手段
コミュニケーションツール　＝　コミュニケーションの手段　伝達手段

【調査データ】
○定着度は中程度だがどちらかといえば低い。20歳代が高く，60歳代が低い。
○公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度が高い。
○新聞の頻度は，全体として増加傾向にある。特に，1996年に急増した。

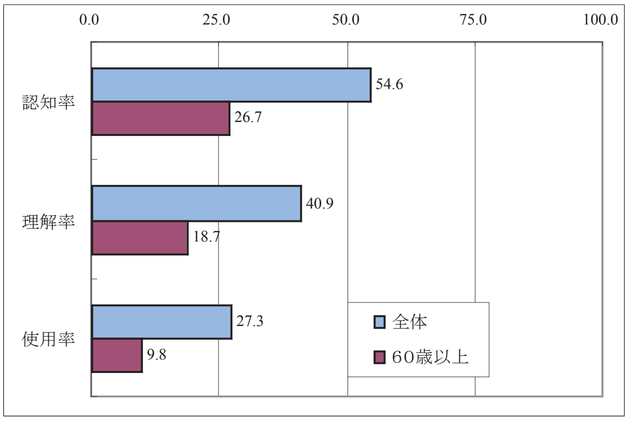

図１　定着度（全体・60歳以上）％

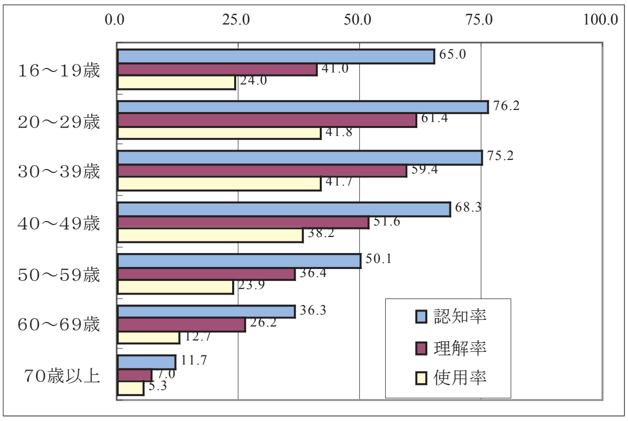

図２　定着度（年齢層別）％

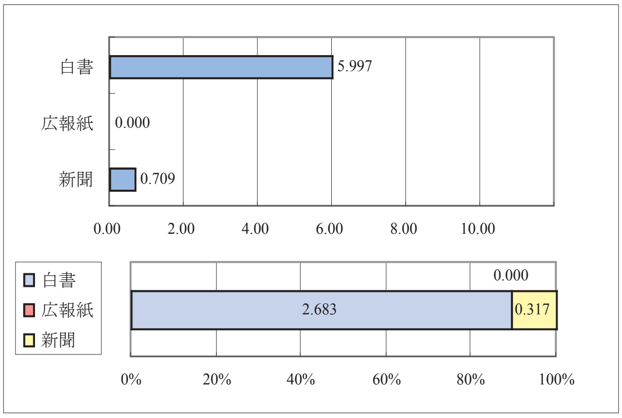

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

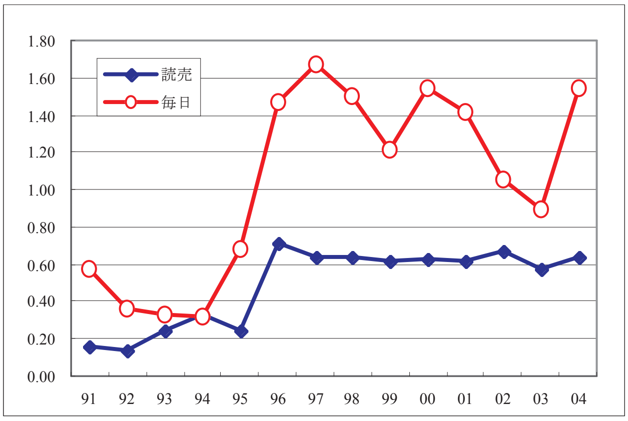

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【背景事情】

○ 新聞頻度の1996年の急増は，コンピューターに関わる話題での使用が急増したことによるものである。「ツール」という語の普及は，コンピューターの普及を背景とする側面があったと考えられる。

【言い換えの論点】

○ コンピューターの分野で使われる「ツール」を言い換えることには慎重な意見があり，外部から寄せられる意見にも，同意見は多かった。この分野に限っては，言い換えよりも説明付与を推奨するべきと考え，その旨を［手引き］に記した。

92. デイサービス　　和製語

「外来語」言い換え提案（第１回）

デイサービス　全体 ★★★★　60歳以上 ★★★☆

言い換え語　日帰り介護

用例　訪問介護のほかに，デイサービス（日帰り介護）を手掛けてきたが，一週間に三日だった利用日を昨秋から毎日に増やした。

意味説明

施設における日帰りの介護サービス

手引き

・かなり定着が進んでいる語で，そのまま使って大きな問題はないと思われる。ただし，60歳以上では，分かりにくいと感じる向きもあるので，読み手の中に高齢者が想定される場合や，不特定多数の人を相手にする場合は特に，言い換えや説明付与が必要になる。

・日帰り介護（デイサービス）は，高齢者用のサービスとして知られているが，障害者の施設における生活支援をも指す。

・類似の語に「デイケア」があり，施設における日帰りの療養サービスを指し，「日帰り療養」「通所リハビリ」などと言い換えられる。

・和製語

その他の言い換え語例　日帰りサービス　通所介護

【調査データ】

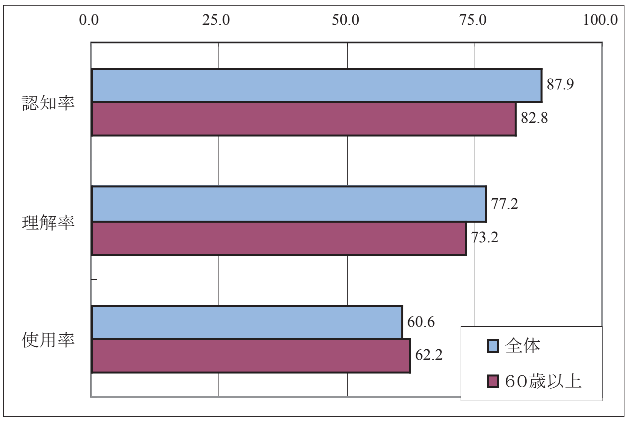

図１　定着度（全体・60歳以上）％

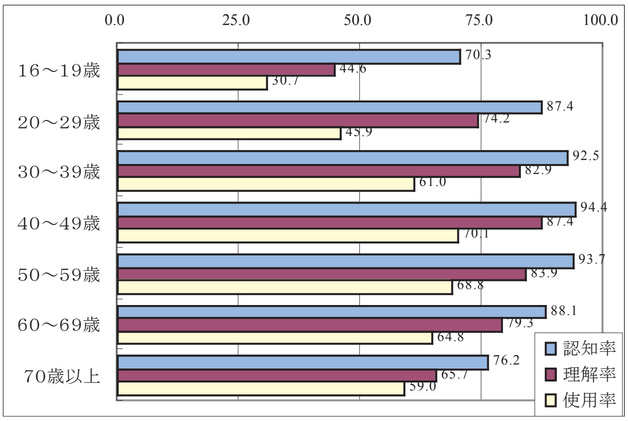

図２　定着度（年齢層別）％

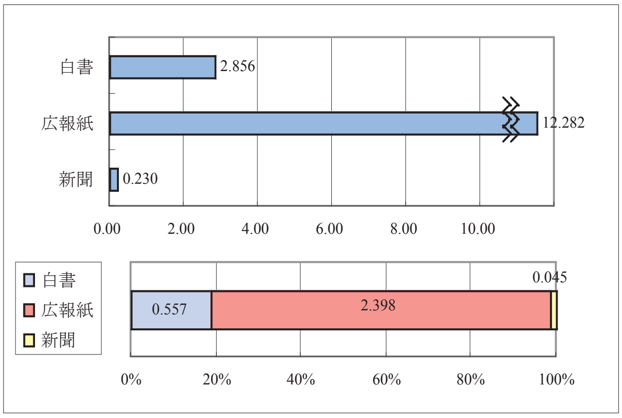

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

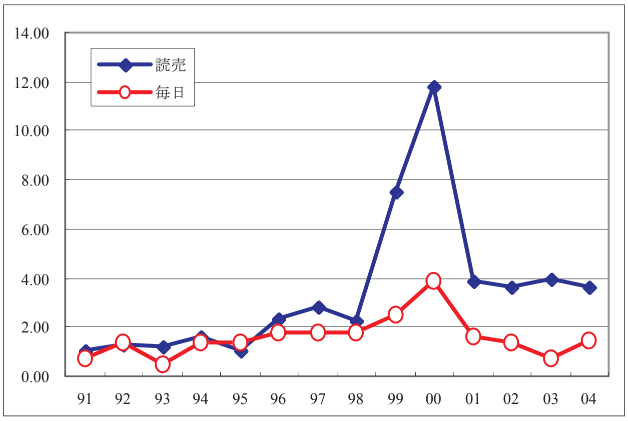

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は高い。

○公共媒体における頻度は高い。広報誌への偏在度がやや高い。

○新聞の頻度推移は，2000年に突出した頂点があり，それ以前はゆるやかな増加傾向，それ以後はゆるやかな減少傾向を示す。

【背景事情】

○新聞の頻度推移で2000年が突出した頂点になるのは，この年に介護保険法が施行され，実施に移された介護保険制度の報道の中でよく話題になったことによる。デイサービスの普及も，介護保険制度の整備とともに進んだと見られる。

【言い換えの論点】

○国民全体の定着度は高いが，60歳以上の定着度は不十分であり，高齢者が当事者となる介護分野の外来語として言い換えの必要性は高い，という意見が強かった。

○介護保険法などにおける正式の呼び名は「通所介護」だが，「通所」の語は分かりにくく，より平易な語への言い換えが必要だと考えられる。すでに使われている実績のある「日帰り介護」は分かりやすく意味も適切であるという意見が強かった。

93. デジタルデバイド　digital divide

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
デジタルデバイド	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　情報格差

用例
情　報　格　差
新旧加盟国間のデジタルデバイドを解消し，すべての人々がＩＴの恩恵を享受できるよう努力することが重要です。

意味説明
情報技術を利用できる層とできない層との，入手できる情報の量や質の格差

手引き
・情報の量や質の格差から生じる，経済的・社会的な格差を指す場合もある。
・情報化によって人々に新しい機会を与えるという意味で「デジタルオポチュニティー」という言葉が使われることもあるが，これは「情報機会」などと言い換えられる。

【調査データ】

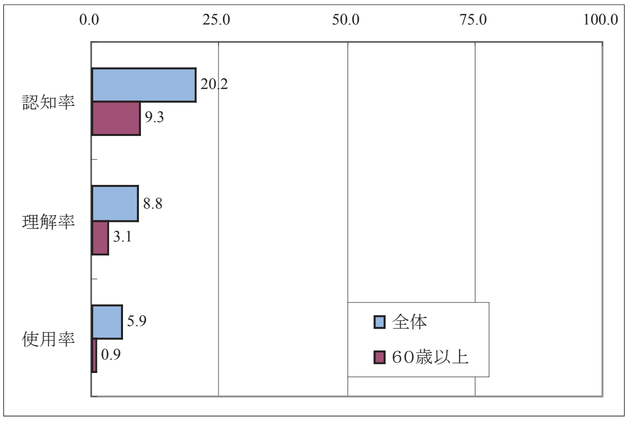

図１　定着度（全体・60歳以上）％

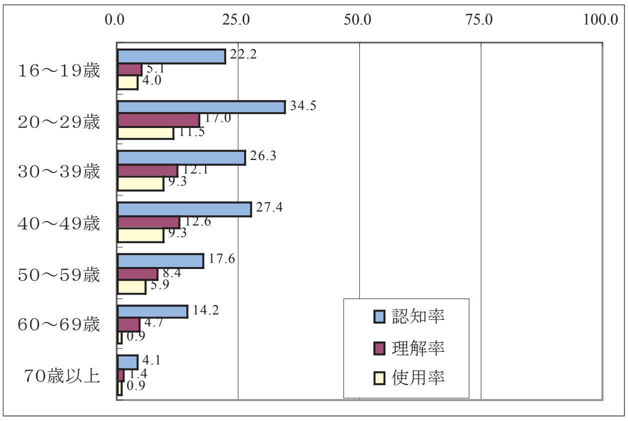

図２　定着度（年齢層別）％

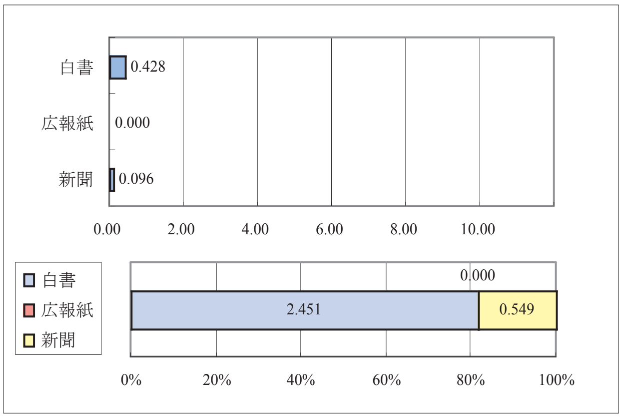

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

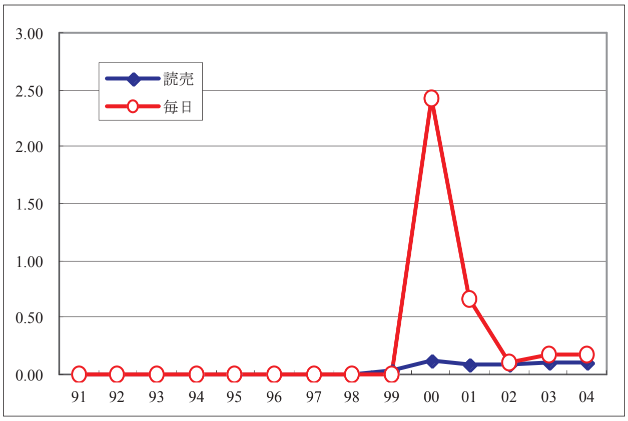

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
○公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。
○新聞には2000年に登場し，この年の頻度が突出する。その後は低頻度のままで，増減の方向は見られない。

【背景事情】

○新聞の頻度が突出する2000年は，「沖縄サミット」をはじめ，いくつかの国際会議で「デジタルデバイド」が議題に取り上げられ，繰り返し報道された。また，国内でも地域間の「デジタルデバイド」が問題にされた。この年は，「ＩＴ革命」という言葉が登場し，盛んに用いられた年である。

【言い換えの論点】

○この語の意味の核心は，情報の量や質の格差なのか，そこから生じる経済的・社会的な格差なのかについて議論した。用例によると，直接的には前者を意味するものが多い。「情報格差」の言い換え語は，情報そのものの量や質という意味にも，情報によって生じる格差という意味にもなり，両方の意味を端的に表せると考えた。

94. デフォルト　default

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
デフォルト	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　（１）債務不履行　（２）初期設定

用例

（１）経済危機で国債は実質的にデフォルト（債務不履行）に陥り，債券相場は暴落した。

（２）デフォルト（初期設定）では黒色に表示されます。

意味説明

（１）債務が履行できない状態

（２）コンピューターなどで，利用者が特に設定を行わない場合に採られる，あらかじめ用意されている設定

手引き

・英語のdefaultには，しなければならないことをしないという意味があり，まず（１）の経済用語として，日本語に取り入れられた。その後，（２）のコンピューター用語として，日本語に取り入れられた。

・白書・新聞などでは，（１）の意味で用いられることが多い。（２）に由来する，「初めから」を意味する用法が，口語に広がりつつある。

・（１）は，「○○債のデフォルト」などと用いられる場合など，単に「不履行」と言うだけで分かる場合もある。

その他の言い換え語例　（１）不履行

複合語例　（２）デフォルト設定 ＝ 初期設定

【調査データ】

○定着度は低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度が高い。

○新聞の頻度は，極端に高くなる年が何度かあるが，全体としては増減の方向ははっきりしない。極端に高くなる年は，ロシアやアルゼンチンなど国家の債務不履行が話題になった年である。

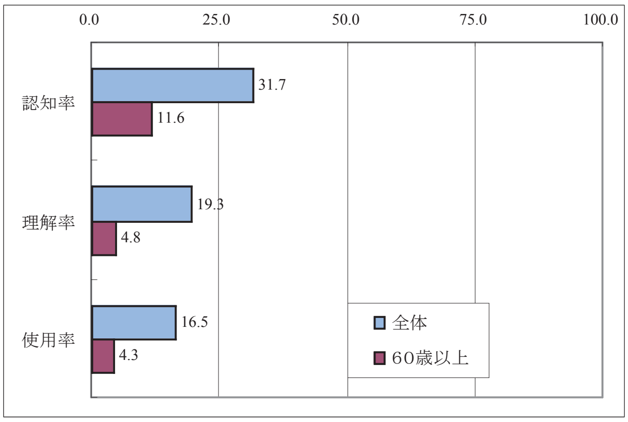

図１　定着度（全体・60歳以上）％

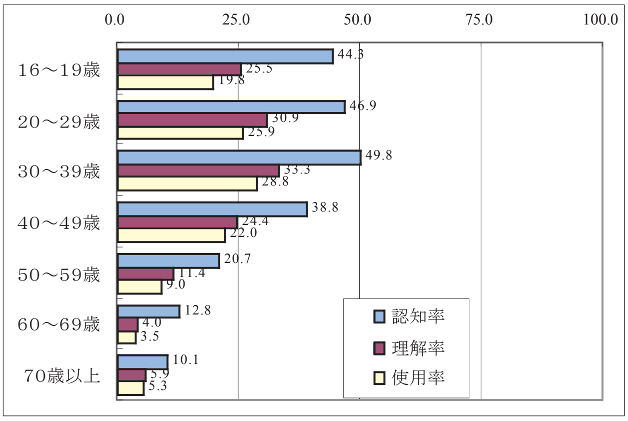

図２　定着度（年齢層別）％

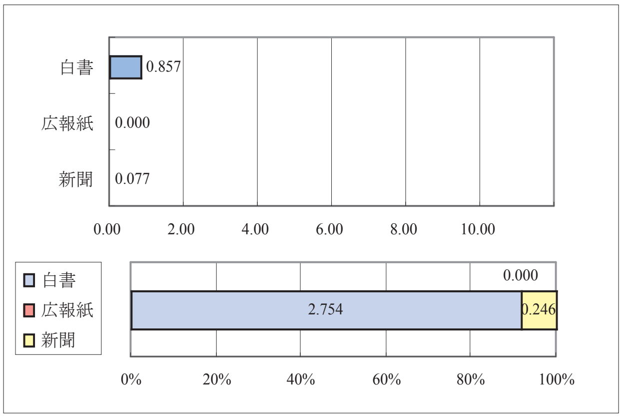

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

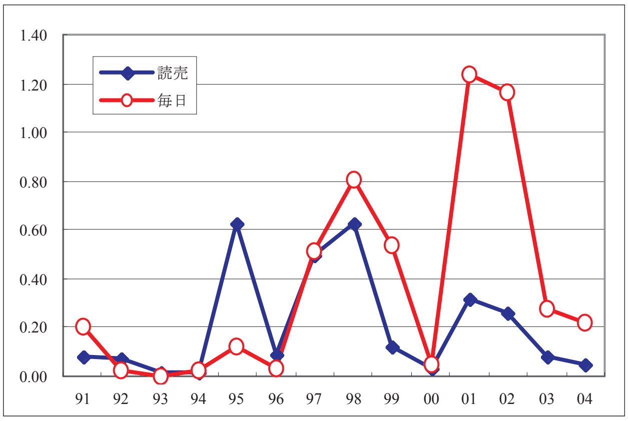

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○（２）のコンピューター用語は言い換え対象にしないという意見があった。一方，この語義から派生して，「初めから」を意味する口語表現が広がっている状況があるので，コンピューター用語としての意味に立ち戻って，言い換えを提案するのが効果的であるという意見もあった。後者の立場で提案を行うこととした。

95.　デポジット　　deposit

「外来語」言い換え提案（第４回）

	全体	60歳以上
デポジット	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　　預かり金

用例　飲食店コーナーでは環境問題を意識して食器のデポジット（預かり金）方式を導入した。

意味説明

容器代などとしてあらかじめ支払っておき，使用後，返却するときに払い戻される料金

手引き

・飲物の容器など，廃棄物を効率的に回収する制度として導入されている料金を指し，「デポジット制度」の形で用いられることが多い。

・預かり金が払い戻されることに着眼して，「預かり金払い戻し」と言い換えると，制度の特徴を端的に示せる点で，分かりやすい。

・「デポジット」単独で，制度を表すことも多いが，その場合は「預かり金制度」「預かり金払い戻し制度」と言い換えることができる。

・この制度は，容器を再使用するために回収する制度を指す場合が多い。その再使用や回収に関して，「リユース」[⇒168]，「リターナブル」[⇒163]と言われることがあるが，それぞれ「リユース」は「再使用」，「リターナブル」は「回収再使用」「再使用できる」などと言い換えることができる。

・何についての預かり金かを明示して，「瓶代預かり」「容器代預かり」などと言い換えるのも分かりやすい。

その他の言い換え語例　預かり金払い戻し　預かり金制度　預かり金払い戻し制度
瓶代預かり　器代預かり

複合語例　デポジット制度 ＝ 預かり金制度　預かり金払い戻し制度

【調査データ】

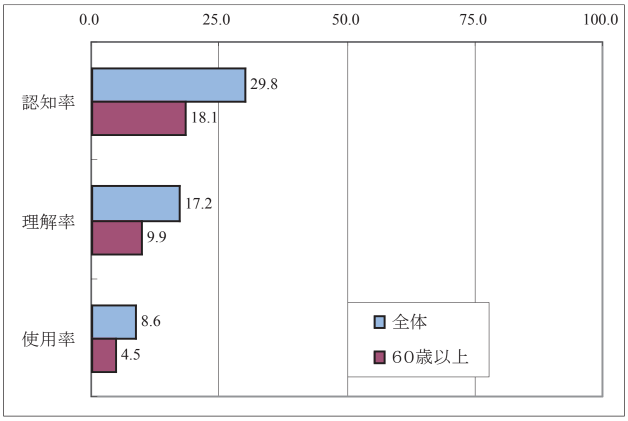

図１　定着度（全体・60歳以上）％

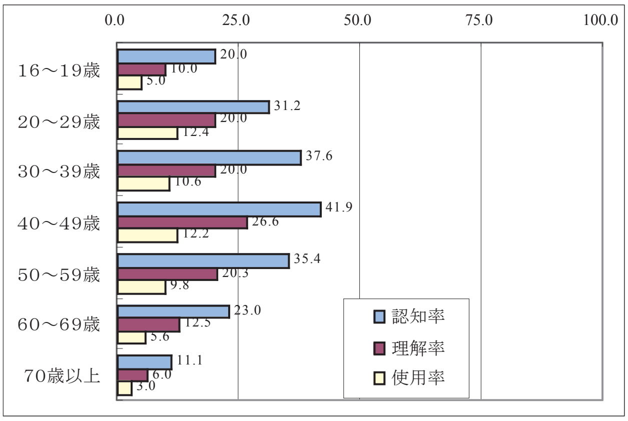

図２　定着度（年齢層別）％

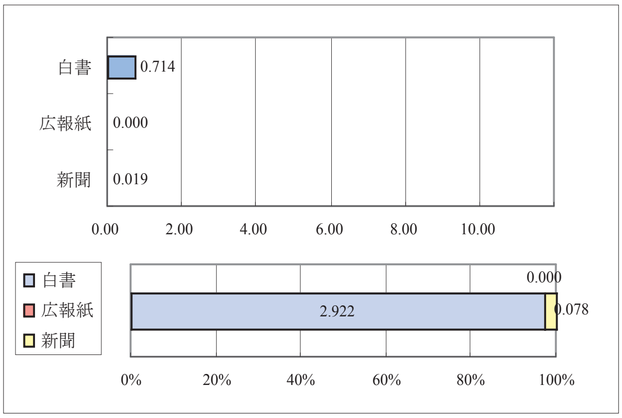

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

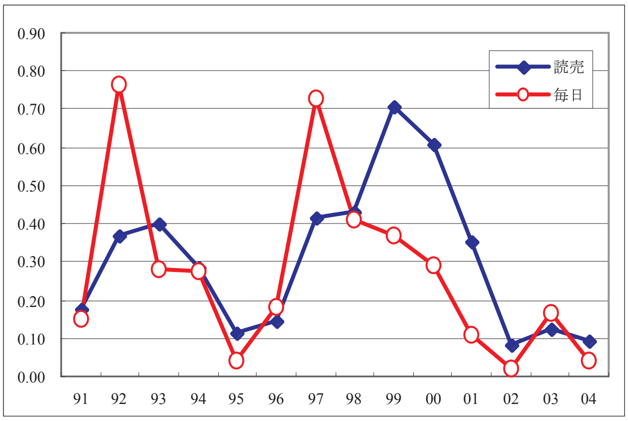

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。理解率と使用率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度は，1990年代後半に増加し，2000年代は減少の方向にある。毎日新聞で1992年が突出しているのは，特集記事があったことによるものである。

【背景事情】

○新聞の頻度が1990年代後半に増加するのは，この時期，特定地域や施設内で，デポジット制度を導入する事例がいくつかあったことと，法制化への取り組みがあったことを反映している。しかし，その後この制度の普及や法制化は進んでいない。

【言い換えの論点】

○「預かり金」単独よりも，「預かり金払い戻し」のように，「払い戻し」までを含む言い換え語の方が分かりやすいという意見があった。説明的な言い換え語としては，「預かり金払い戻し」など，概念の全体が端的に分かる言葉の方が効果的だと考え，［手引き］に記した。

→参照　リターナブル

96.　デリバリー　delivery

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
デリバリー	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　配達

用例　インターネット取引が将来有望視されているが，その場合でもモノのデリバリー（配達）がなくなるわけではない。

意味説明

必要なものを必要とする人や場所などに届けること

手引き

・ピザなどの場合は「宅配」，大がかりなものの場合は「配送」と，言い換え語を使い分けることも考えられる。

その他の言い換え語例　宅配　配送

複合語例　コントロールドデリバリー　＝　泳がせ捜査
ドラッグデリバリーシステム　＝　薬物送達システム　薬剤を患部に直接運ぶ治療法

【調査データ】

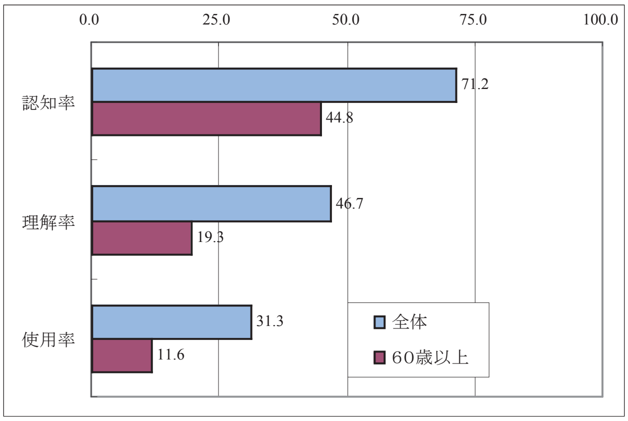

図１　定着度（全体・60歳以上）％

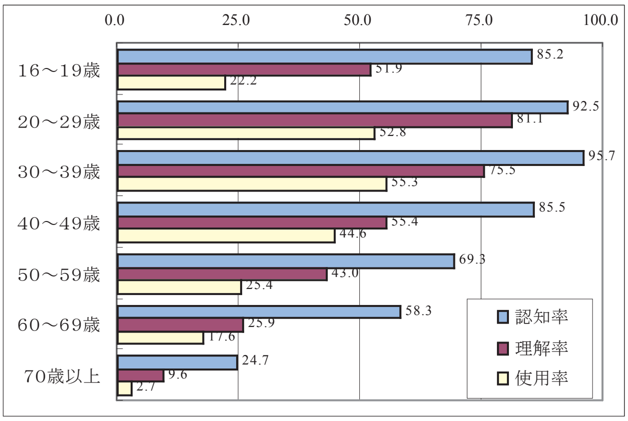

図２　定着度（年齢層別）％

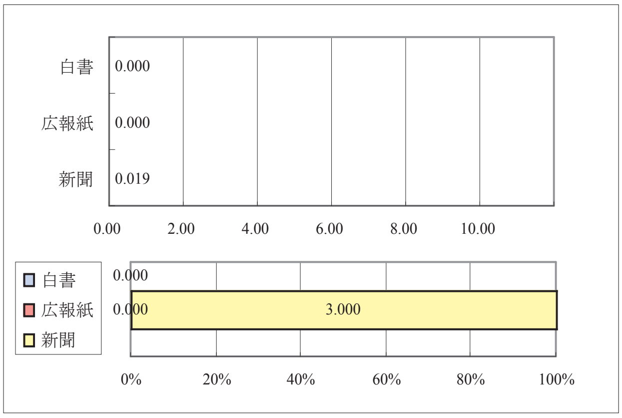

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

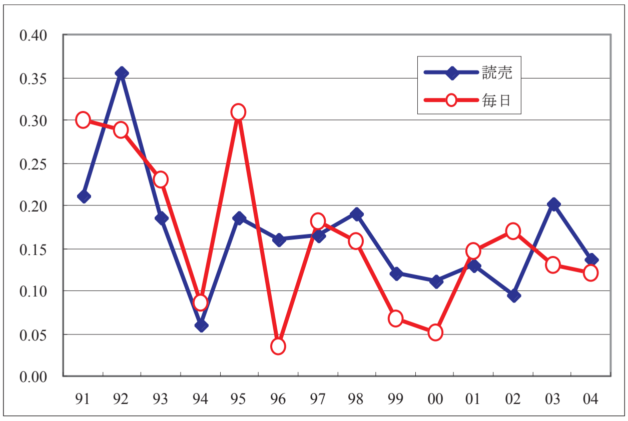

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は中程度だがどちらかといえば低い。年齢層による差異が大きい。20〜30歳代が高く，60歳代が低い。

○公共媒体における頻度はきわめて低い。新聞への偏在度が高い。

○新聞の頻度は低く，明確な増減の方向を見定めにくいが，全体としては減少の方向にあることも，見て取れる。

【言い換えの論点】

○定着度は中段階に達しており，公共媒体における頻度の低さに比較して，高い。おそらく商業活動のなかでよく使われ，国民も消費者として見聞きする機会が多いのだと考えられる。しかし，言い換え語でこの外来語の意味を表すことはできるので，公共的な場面では言い換えることが望まれると考えた。

97. ドクトリン　doctrine

「外来語」言い換え提案（第３回）

	全体	60歳以上
ドクトリン	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　原則

用例　21世紀の東アジア協力のドクトリン（原則）として，アジア外交を積極的に推進する。

意味説明

公式に宣言される，政策の基本原則

手引き

・「原則」では意味が広すぎて分かりにくいと感じられる場合は，「基本原則」「政策原則」などと言い換えたり，説明を付けたりすることもできる。

・「ブッシュドクトリン」「軍事ドクトリン」など，宣言者や内容を示した複合語として用いられる場合が多い。そうした宣言を引用する場合も，言い換え語やその他の言い換え語例を使って，説明を付与するなどの工夫が必要である。

その他の言い換え語例　基本原則　政策原則

【調査データ】

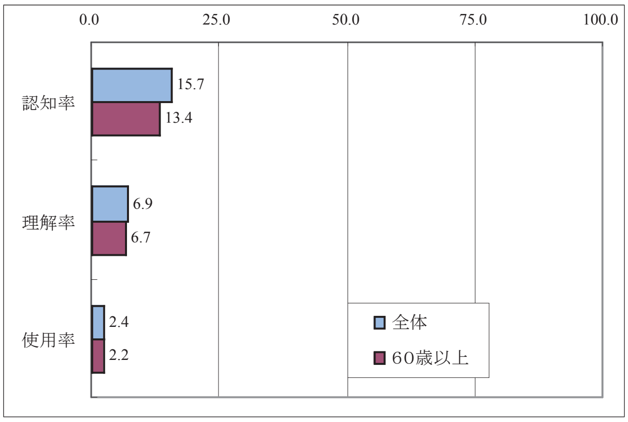

図１　定着度（全体・60歳以上）％

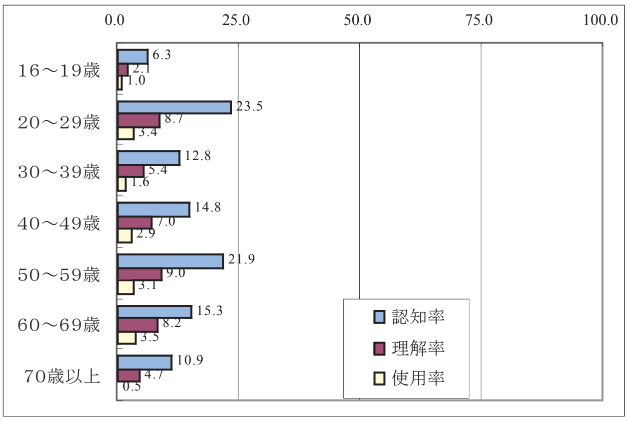

図２　定着度（年齢層別）％

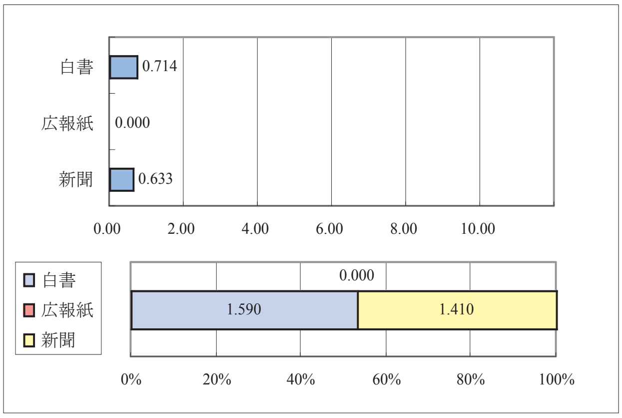

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

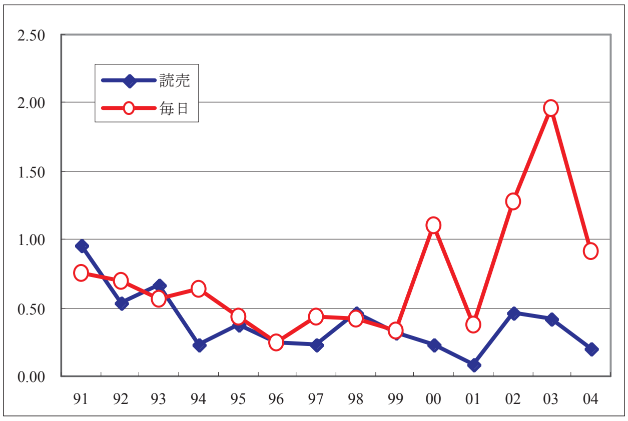

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。

○新聞の頻度は，毎日新聞で2000年以後増加しているように見える。

【背景事情】

○新聞の用例に多いのは，「ロシアの軍事ドクトリン」「ブッシュドクトリン」「東南アジアへの貢献をうたった福田ドクトリン」など，外国の政策や日本の外交政策の呼び名の一部になっているものである。2000年以後の頻度の増加も，こうした政策名が引用される報道が増えたことによるものである。

【言い換えの論点】

○「原則」または「基本原則」と言い換えたり，言い添えたりすることで，意味は伝えられると考えられる。用例の多くが政策に関するものであるので，「政策原則」とすることで，意味が分かりやすくなる面もある。「原則」を言い換え語としつつも，「政策原則」も分かりやすいことを，［手引き］で言及した。

98．ドナー　donor

「外来語」言い換え提案（第４回）

	全体	60歳以上
ドナー	★★★☆	★★☆☆

言い換え語　（１）臓器提供者　（２）資金提供国

用例

（１）脳死と判定されたドナー（臓器提供者）の心臓と両肺を一人に移植する「心肺同時移植」の患者が

（２）わが国は他のドナー（資金提供国）との政策協議を積極的に行っており，2000年度に二国間援助協議を行った国は９か国にのぼりました。

意味説明

（１）移植手術において臓器などを提供する人

（２）政府開発援助において資金を提供する国

手引き

- 医療の分野で臓器移植における臓器提供者を指す場合が最も一般的であるが，行政の分野で，国際援助における資金提供国を指す場合もある。
- （１）は，臓器のほか，骨髄移植や臍帯血（さいたいけつ）移植における臍帯血（さいたいけつ）の提供者を指して使われることもある。何を提供する人かを具体的に示して「心臓提供者」「骨髄提供者」などと言い換えるのも分かりやすい。
- （２）は，国家による援助だけでなく，団体や個人による援助の場合にも用いられることがある。その場合は，「資金提供者」と言い換えることができる。
- 臓器や資金の提供を受ける側を指して，「レシピエント」［⇒170］ということがある。この場合は，「移植患者」「移植希望者」「援助受け入れ国」などと言い換えられる。
- 定着に向かっている語だと思われ，「ドナー」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし，60歳以上では半数以上が分からない語であり，言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例　（１）心臓提供者　骨髄提供者　（２）援助国　資金提供者

複合語例

（１）ドナーカード　＝　臓器提供意思表示カード

（２）ドナー国　＝　資金提供国

【調査データ】

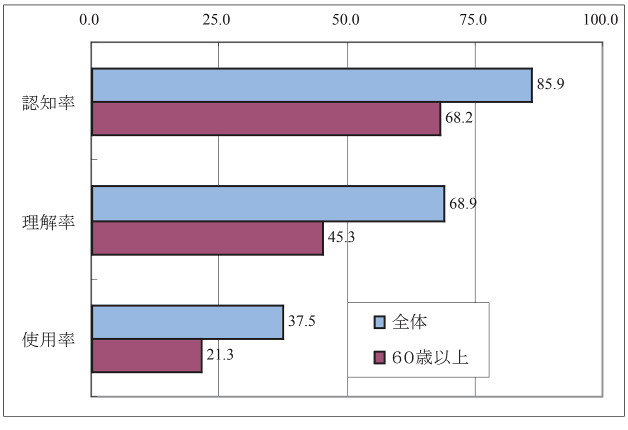

図１　定着度（全体・60歳以上）％

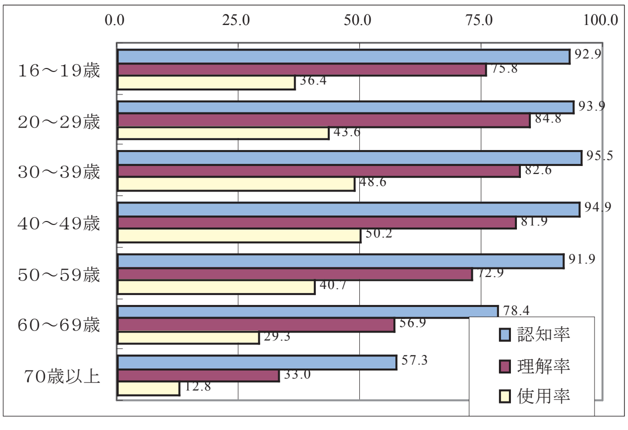

図２　定着度（年齢層別）％

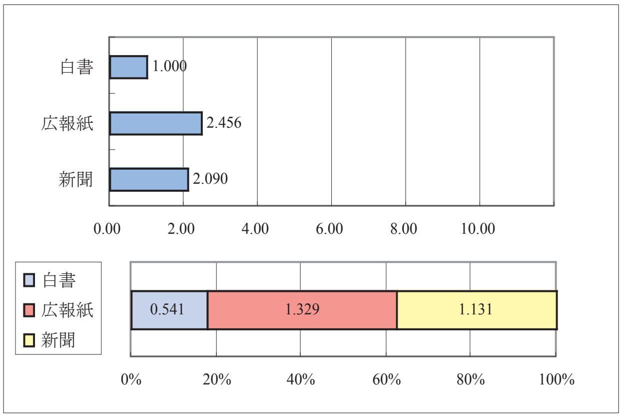

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

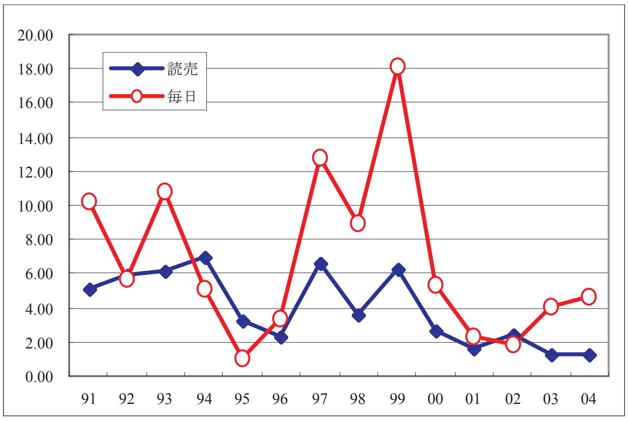

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はやや高い。理解率と使用率の乖離がかなり大きい。

○公共媒体における頻度はやや高い。

○新聞の頻度推移は，1990年代初めに多かったが，その後減少する。1997年から1999年に再び増加するが，2000年に減少し，その後はほぼ横ばいである。

【背景事情】

○新聞の頻度が1990年代初めに多かったのは，1992年に最終答申が出された「臨時脳死及び臓器移植調査会」（脳死臨調）にかかわる報道が多かったことによる。頻度が急増する1997年は，「臓器の移植に関する法律」（臓器移植法）が施行された年，1999年は，国内で初めて何例かの脳死移植が実現した年で，それぞれ大きく報道された。その後も一定頻度で用いられ続けており，「ドナー」は定着に向かっていると考えることができる。

○（２）の語義で用いられる例は白書に偏り，専門性の高い用語である。

【言い換えの論点】

○医療用語として普及しつつある（１）の意味の「ドナー」は，語形も簡潔で覚えやすく，定着に向かっていると考えられ，言い換えの必要性はさほど高くない。一方，（２）の「ドナー」は，一般に全くなじみがなく，言い換えや説明付与の必要性が高いと考えた。

→参照　レシピエント

99.　トラウマ　　trauma/Trauma　ドイツ語

「外来語」言い換え提案（第４回）

	全体	60歳以上
トラウマ	★★★☆	★★☆☆

言い換え語　　心の傷

用例　犯罪に巻き込まれたトラウマ（心の傷）を軽減する仕組みとして注目されているが

意味説明

強いショックによって受ける，後々まで消えない心の傷

手引き

・元来は傷を意味する語であるが，精神医学の分野で，強いショックによって心に受ける深い傷を意味する語として使われるようになった。「心の傷」と言い換えるのが最も分かりやすいが，やや硬い場面や，「トラウマに陥る」などの文脈では，「心的外傷」という言い換え語が適切になる場合もある。

・定着に向かっている語だと思われ，「トラウマ」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし60歳以上では，半数以上が分からない語であり，言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例　心的外傷

【調査データ】

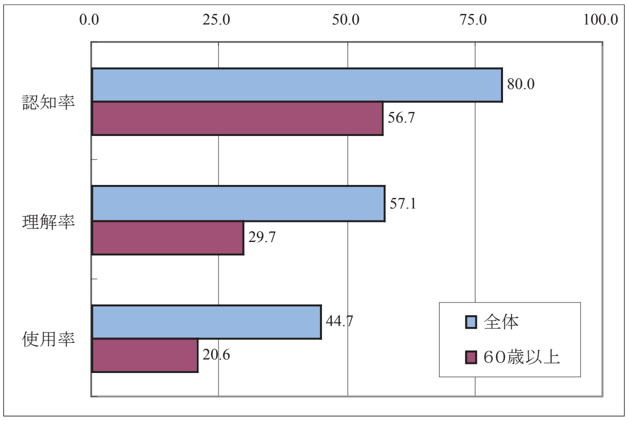

図１　定着度（全体・60歳以上）％

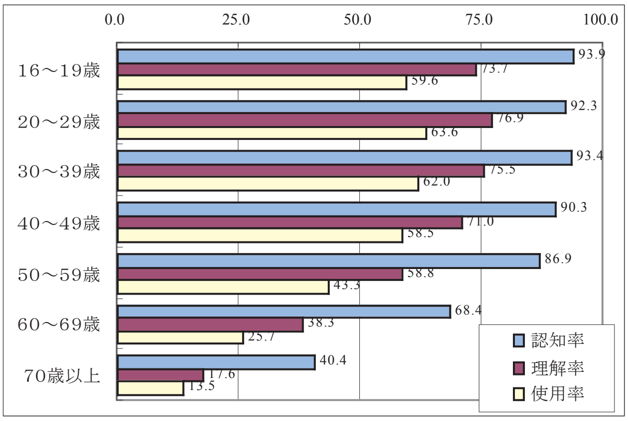

図２　定着度（年齢層別）％

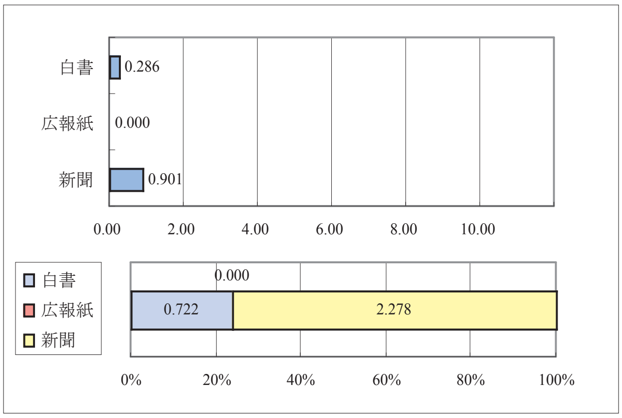

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

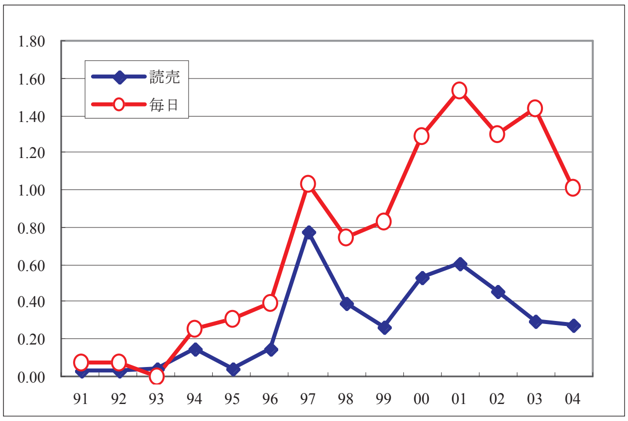

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は中程度だがどちらかといえば高い。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。新聞への偏在度がやや高い。

○新聞の頻度は，1994年頃から2001年頃まで増加の方向にあり，それ以降減少の方向に転じる。

【言い換えの論点】

○言い換え語を一つに絞り込む際，「心の傷」とすべきか「心的外傷」とすべきかで，意見が分かれた。平易で分かりやすいのは「心の傷」，意味が正確で言い換え語としての実績があるのは「心的外傷」。分かりやすさを重視して，「心の傷」を言い換え語とした。

100.　トレーサビリティー　traceability

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
トレーサビリティー	★☆☆☆	★☆☆☆

言い換え語　履歴管理

用例　農水省は03年度予算で本格的に，牛肉だけでなく米や野菜でもトレーサビリティー（履歴管理）を導入していく方針だ。

意味説明

生産流通の履歴を管理し追跡できる仕組み

手引き

- 牛肉など食品をはじめ，製品の生産から流通に至る全情報を把握しておき，問題が生じたときに，速やかに対応できるようにしたシステムを指す。
- 牛海綿状脳症（BSE）が日本でも確認され，「牛の個体識別のための情報管理及び伝達に関する特別措置法」（牛トレーサビリティー法，2003年施行）などが整備される過程を通じて，一般にも広まり始めた。
- 何に関する履歴であるかを明示し，「生産履歴管理」「製造履歴管理」などとすることもできる。

その他の言い換え語例　履歴管理制度　追跡可能性

【調査データ】

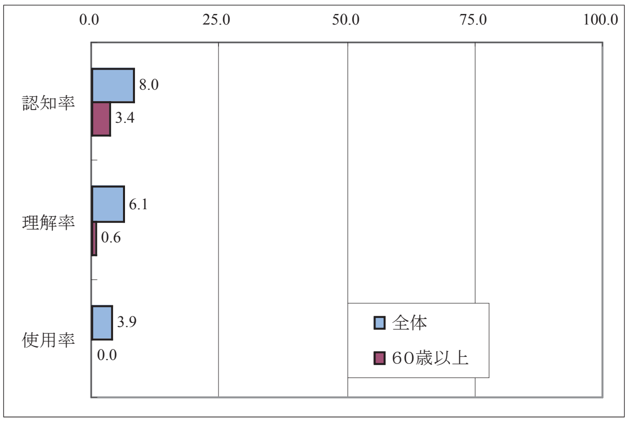

図１　定着度（全体・60歳以上）％

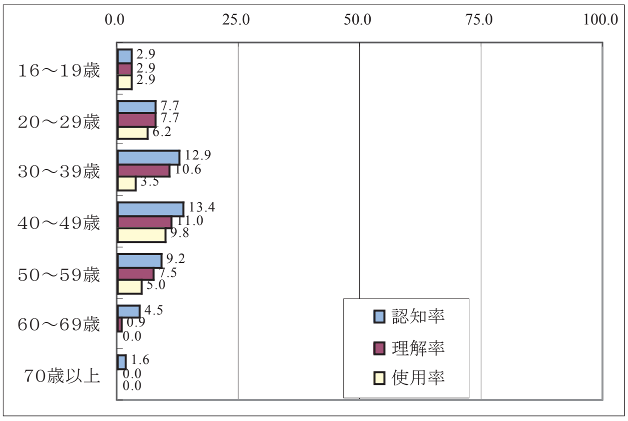

図２　定着度（年齢層別）％

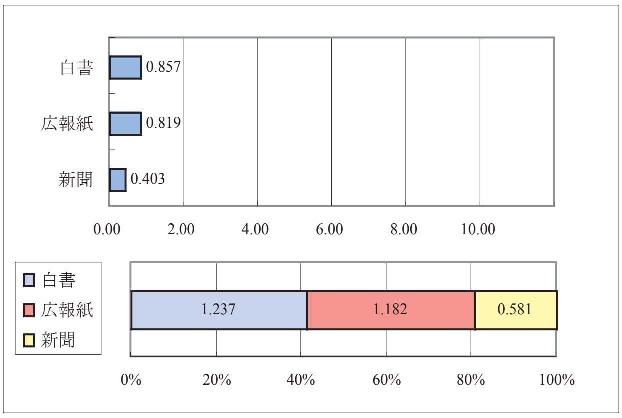

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

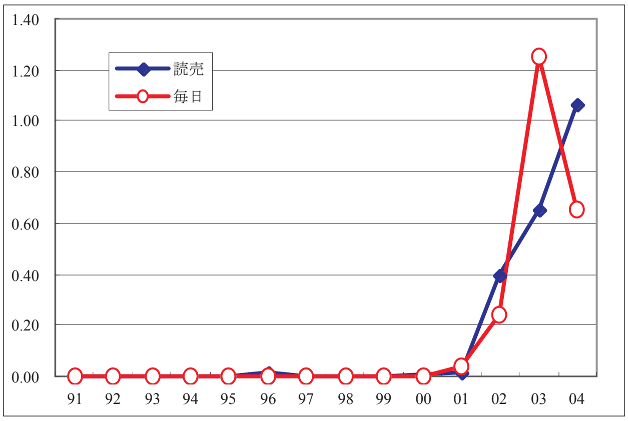

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はきわめて低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。

○新聞の頻度は，2002年に急増し，その後も増加傾向にある。毎日新聞は2004年に減少する。

【背景事情】

○2001年にBSE（牛海綿状脳症）が国内で初めて確認されたことをきっかけに，2003年に「牛の個体識別のための情報管理及び伝達に関する特別措置法」（牛トレーサビリティー法）が制定された。この動きによって，登場し急増した「トレーサビリティー」であるが，牛肉以外の食品や，食品以外の商品についても，生産や流通の履歴を管理するシステムが整備され，使用場面を拡大してきた。

○2006年以後は，ニュースに取り上げられる機会が少なくなり，現在は新聞の頻度は減少に転じている。

【言い換えの論点】

○英語traceabilityの原義を生かした「追跡可能性」という言い換え語を検討したが，外来語「トレーサビリティー」の意味を伝えるためには，何を追跡するかの説明が必要になり，この言い換え語だけでは，分かりにくいと判断した。

○指し示す内容から，「生産流通過程の追跡」「生産履歴の追跡」などの説明語を検討し，現実には，食品などの生産流通を管理するシステムを整備しようとして持ち出された概念であるので，「生産流通の履歴を管理するシステム」と考え，これを縮約した「履歴管理」を言い換え語とした。

101. トレンド　trend

「外来語」言い換え提案（第２回）

	全体	60歳以上
トレンド	★★★☆	★★☆☆

言い換え語　傾向

用例　いずれの産業においても生産性は改善している一方，雇用減少のトレンド（傾向）を覆すには至っておらず雇用量は減少している。

意味説明
ある方向へ変化していく，全体的な傾向

手引き

・株価や金利などについていう場合は「動向」，風俗やファッションに関していう場合は「流行」と言い換える方が分かりやすい場合もある。

・定着に向かっている語だと思われ，「トレンド」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし，60歳以上では半数以上が分からない語であり，言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例　動向　流行

【調査データ】

○定着度は中程度だがどちらかといえば高い。年齢層による差異が大きい。20～30歳代で高い。

○公共媒体における頻度はやや高い。新聞への偏在度が高い。

○新聞の頻度は，全体を通してほぼ横ばいである。

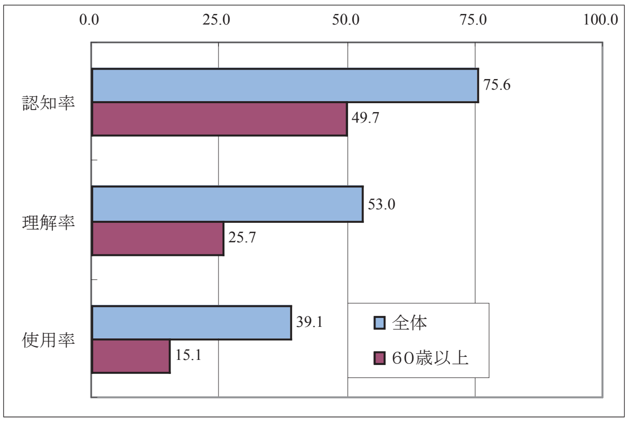

図１　定着度（全体・60歳以上）％

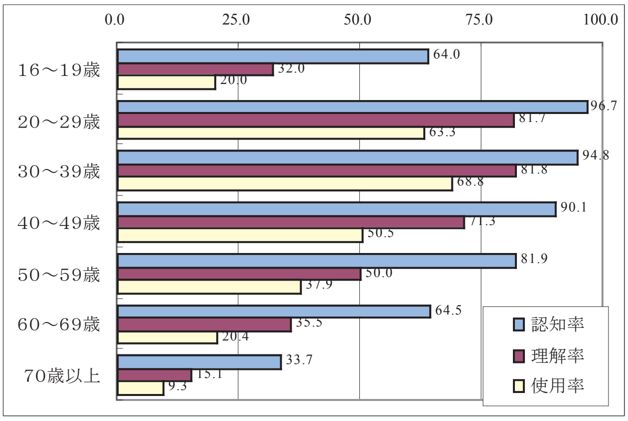

図２　定着度（年齢層別）％

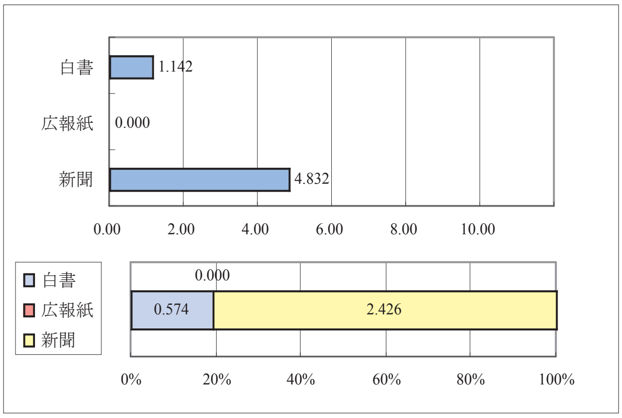

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

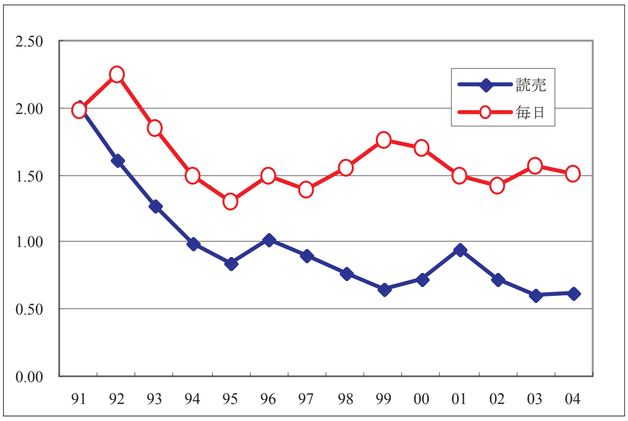

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○経済の動向と風俗の流行の二つの意味に分けて言い換え語を掲げるか，一つにまとめるかで，意見が分かれた。二つをまとめる意味を表す言い換え語に「傾向」があり，二つを区別する言い換え語に「動向」と「流行」があるので，この三つの言い換え語の関係が分かるような提案とし，場面や文脈によって使い分ける方向を示した。

102．ナノテクノロジー　nanotechnology

「外来語」言い換え提案（第４回）

ナノテクノロジー　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　超微細技術

用例　話題のナノテクノロジー（超微細技術）や宇宙開発をテーマにしたコーナーを設け

意味説明

十億分の一メートル程度の非常に微細な規模で物質を扱う技術

手引き

・「ナノ」は十億分の一の意味で，ナノメートルという非常に微細な規模で，原子や分子の配列を制御できる技術を指して，「ナノテクノロジー」と言う。

・「超微細技術」と言い換えると，十億分の一という具体的な規模が表せないので，正確な意味を伝える必要のある場合は，意味説明に記した語句などを用いて，説明を付与する必要がある。

・2001年度の「経済財政基本方針（骨太の方針）」において，科学技術創造立国の実現を目指すための重点施策の一つとされたことを機に，一般にも広まり始めた。

・略語「ナノテク」が用いられることもあるが，意味は同じである。

【調査データ】

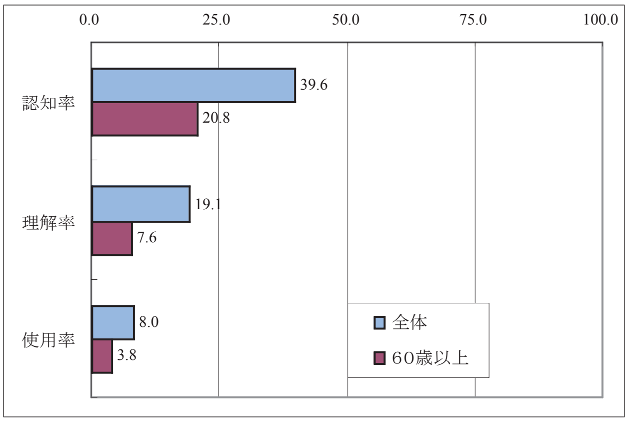

図１　定着度（全体・60歳以上）％

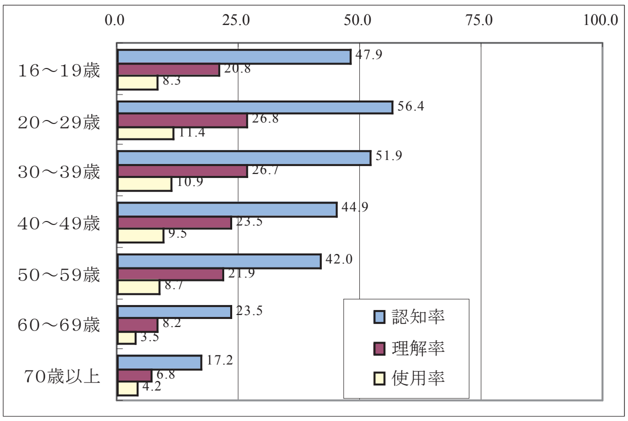

図２　定着度（年齢層別）％

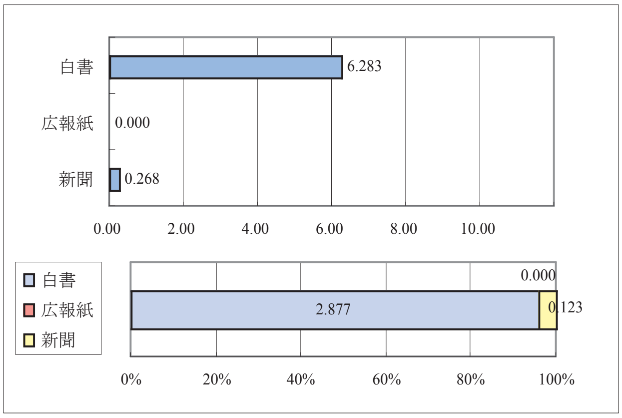

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

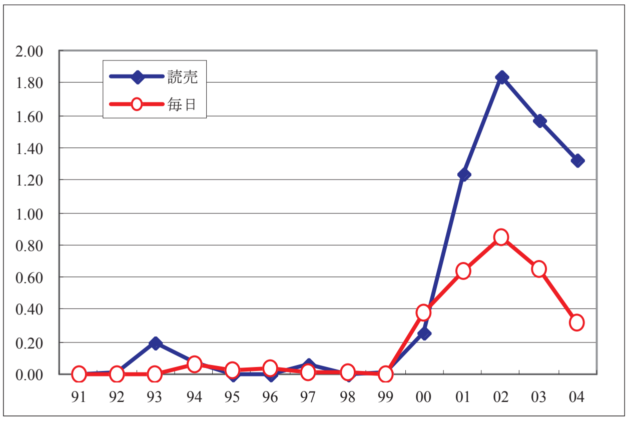

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離も大きい。

○公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度は，2000年から急増し2002年まで増加傾向にある。その後は減少に転じている。

【背景事情】

○新聞で2000年から頻度が急増するのは，学術の先端分野として重点的に予算配分するなどの，国の科学技術政策を背景とするものである。白書への偏在度が高いところにも，政策との連動が見て取れる。

【言い換えの論点】

○「ナノ」の持つ「10億分の１」という意味を表せない言い換え語を示しても無意味であるという意見があり，外部からも，この意見が多数寄せられた。大体の意味を伝えたい場合は「超微細技術」を用い，正確な意味を伝えたい場合は説明的な語句を用いる工夫が必要であることを，［手引き］等に記した。

103. ネグレクト　neglect

「外来語」言い換え提案（第４回）

ネグレクト　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　（１）育児放棄　（２）無視

用例
（１）ネグレクト（育児放棄）による虚弱や食生活の乱れによる肥満など表面化しない虐待を受けた児童は行き場がほとんどないのが実情だ。
（２）最も民主政治の根本にかかわる問題についてネグレクト（無視）してしまっている。

意味説明
（１）親などが，保護者として行わなければならない乳幼児や児童の養育を，放棄すること
（２）取り合わず無視すること

手引き
- （２）の意味で用いられることは以前からあったが，一般には余り広まらなかった。「児童虐待防止法」（2000年施行）の制定を機に，（１）の意味で用いられることが急増し，一般にも広まり始めた。
- 「児童虐待防止法」（2000年施行，2004年改正）では，児童虐待の一つとして「児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置」「保護者としての監護を著しく怠ること」を挙げる。これを指して「ネグレクト」ということがあるが，一般には分かりにくい。
- 上記の法律では他に，身体的な虐待，性的な虐待，心理的な虐待を，児童虐待として規定している。
- 児童に対する場合のほかに，高齢者や障害者に対する介護を放棄することを指して使われることがあり，「介護放棄」と言い換えることができる。児童，高齢者，障害者を包括して，「世話の放棄」などと言い換えることも考えられる。

その他の言い換え語例　（１）介護放棄　世話の放棄

【調査データ】
○定着度はきわめて低い。
○公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。
○新聞の頻度は，1999年に急増し，その後も増加の方向にある。

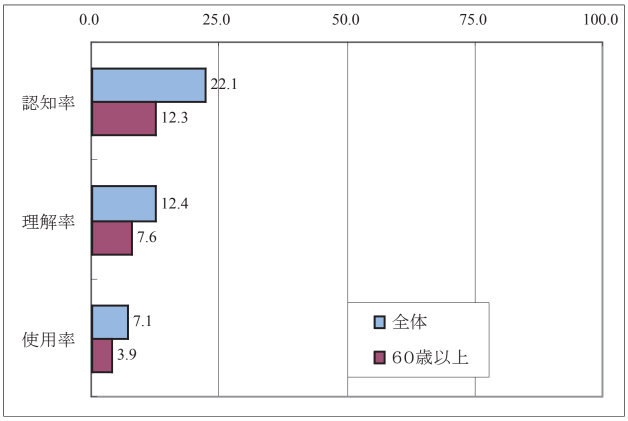

図１　定着度（全体・60歳以上）％

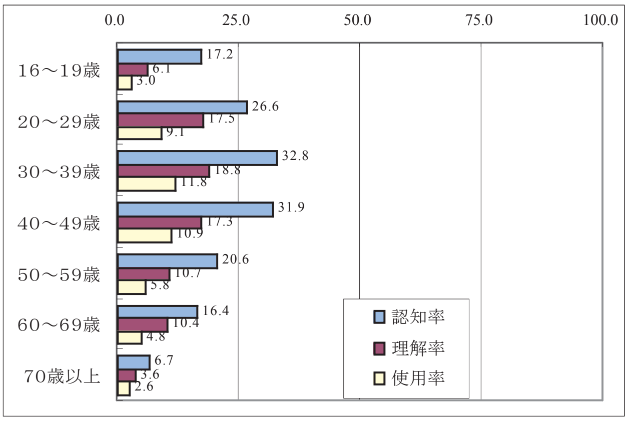

図２　定着度（年齢層別）％

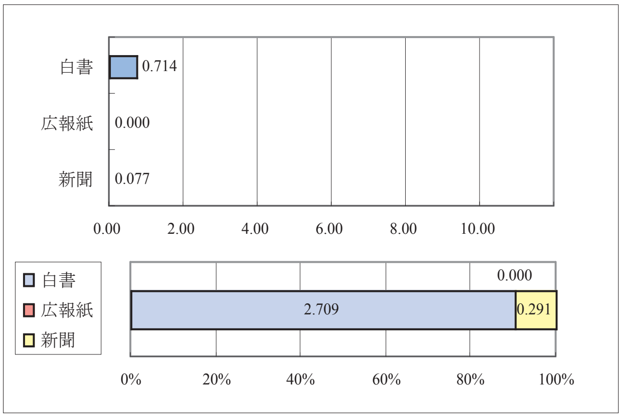

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

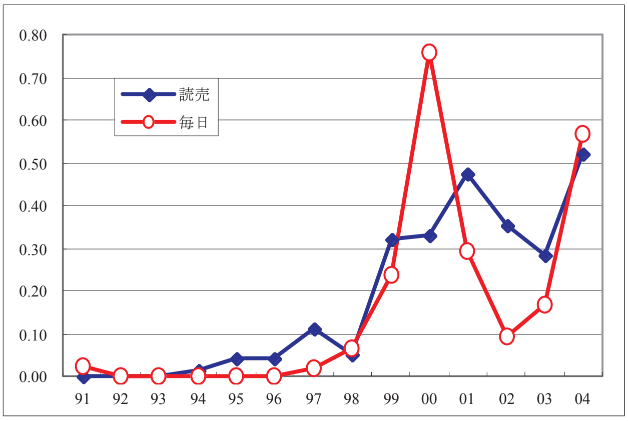

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【背景事情】

○新聞の頻度の増加は，「児童虐待防止法」の制定（2000年）と改正（2004年）などを機に社会の関心が高まったことによるものである。「ネグレクト」という語は，法律自体には使われていないが，法律制定の過程での議論や，虐待の種類の解説などで，よく使われた。

【言い換えの論点】

○英語neglectの本来の意味である，「無視」の意味で使われることは，公共媒体では少ないので，虐待にかかわる場面での適切な言い換え語を提案すべきだと考えた。

104. ノーマライゼーション　normalization

「外来語」言い換え提案（第２回）

ノーマライゼーション　全体 ★☆☆☆　60歳以上 ★☆☆☆

言い換え語　等生化　等しく生きる社会の実現

用例　養護学校との情報交換やノーマライゼーション（等生化）の理念を教職員や保護者，地域などに浸透させることを提言するものとみられる。

意味説明

障害のある人も，一般社会で等しく普通に生活できるようにすること

手引き

- これからの社会の重要な概念になると考えられ，概念の普及のためにも，分かりやすい言い換えや説明が必要である。
- これまで「共生化」と言い換えられることが多かったが，「共生」は，人間と野生動物との共生，多民族間の共生など，使われる分野が広くなりすぎ，分かりにくくなる問題がある。「ノーマライゼーション」の意味概念をそのまま移し替えることのできる新語として，「等生化」を提案したい。どの言い換え語を使う場合も，当面は，説明を付与するなどの配慮が必要である。
- 話し言葉では「等しく生きる社会の実現」のような言い換えも，耳で聞いて分かりやすい。
- 「ノーマライゼーション」は，これまでの福祉が，障害者を一般社会から引き離して，特別扱いする方向に進みがちであったのに対して，すべての人が，同じ人として普通に生活を送る機会を与えられるべきであるという，新しい福祉の考え方を提唱する語である。

・この考え方に基づいて，実際に福祉環境をきめ細かく整備していこうとする場合は，「福祉環境作り」と言い換えることも有効である。

・障害者だけでなく，高齢者などを含める場合もあるので，説明を付与する場合は，文脈に応じて工夫する必要がある。

その他の言い換え語例　共生化　福祉環境作り

【調査データ】

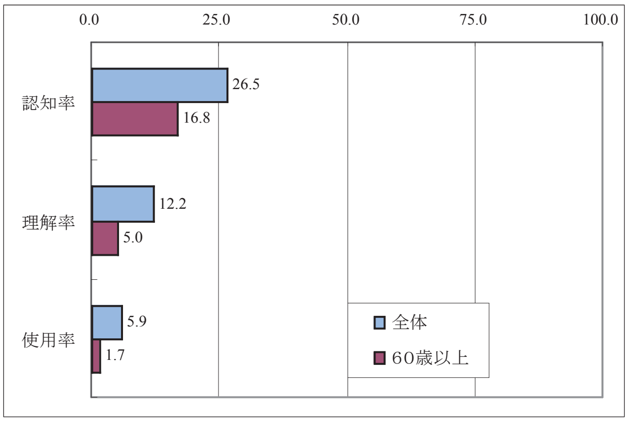

図１　定着度（全体・60歳以上）％

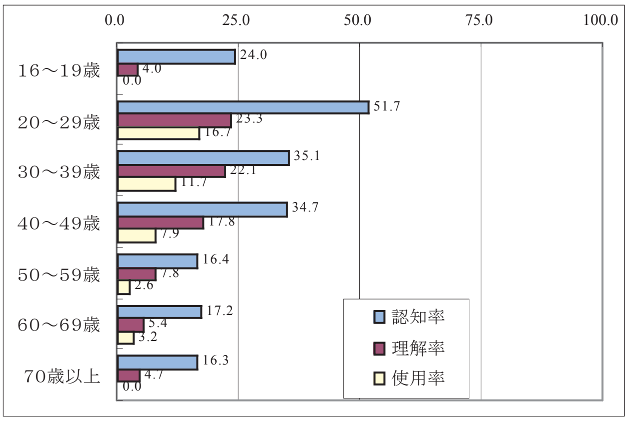

図２　定着度（年齢層別）％

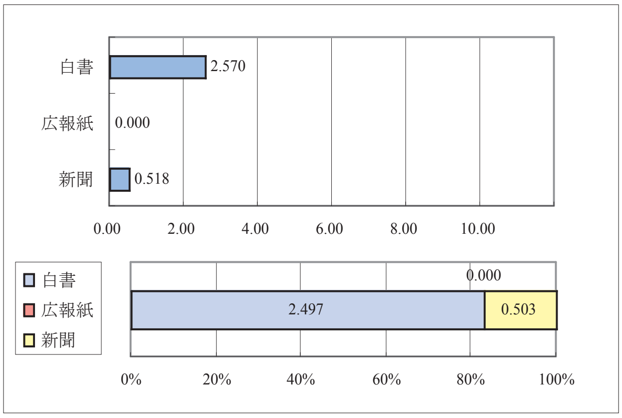

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

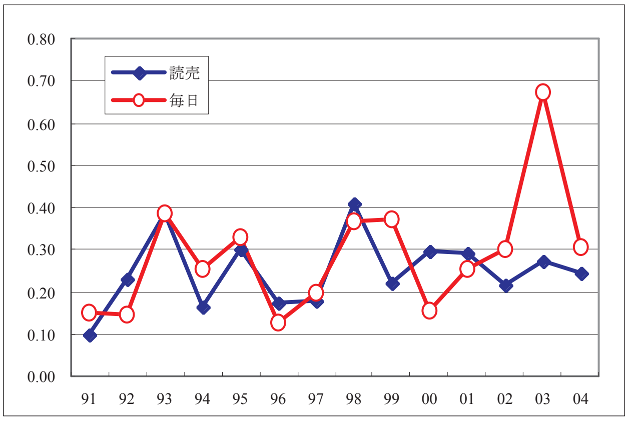

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度が高い。

○新聞の頻度は，2003年の毎日新聞で突出しているが，これは，「外来語」言い換え提案にかかわる報道の例が多数を占めるものである。「等生化」という新造語による言い換え語に対して話題が集まり，言い換え提案の報道の中でも，特に話題になる機会が多かった。この年以外は，低い頻度のままで増減の方向は見られない。

【背景事情】

○障害者を一般社会から引き離して特別扱いにしてきた従来の福祉の在り方から，同じ人として普通に生活を送る機会を与える方向に変えていこうとする，新しい福祉の考え方を提唱する概念である。その理念を普及しようと努めている人たちは，「ノーマライゼーション」という外来語を用いている。

【言い換えの論点】

○「ノーマライゼーション」は，現代社会の重要概念でありながら，定着度はきわめて低い。概念の普及のためには，分かりやすい言い換え語の工夫が不可欠な現状にある。「共生化」「通常化」「正常化」など，従来試みられた言い換え語は，すでに別の意味がしみついており，新しい概念である「ノーマライゼーション」の言い換えとしては，適切でないと考えた。

○「ノーマライゼーション」の概念をそのまま移し換える新語を造るか，意味を説明しつつ「ノーマライゼーション」をそのまま使うか，この二つの考え方が，有力な意見として対立した。言い換え提案は，提案を行う場合，言い換え語を立てるという原則をとることとしているので，前者の立場を取り，説明を付ける方法も［手引き］で推奨することとした。提案の中で，３字以下の漢語としては唯一の新造語である「等生化」を提案することとした。

○「等生化」は，「等しく生きる社会の実現」という表現を縮約したものである。概念を説明する場合に「等しく生きる社会の実現」を用いることで，「等生化」という新語に意味が肉付けされていくことをねらった。「等生化」は，「統制化」と同音であり不適切という意見も強かったが，致命的なものではないと判断した。

→参照　アクセシビリティー，バリアフリー，ユニバーサルデザイン

105. ノンステップバス　和製語

「外来語」言い換え提案（第１回）

	全体	60歳以上
ノンステップバス	★★☆☆	★★☆☆

言い換え語　無段差バス

用例　車いす利用者が人の助けなしで乗車できるノンステップバス（無段差バス）は現在，全国に約100台。

意味説明

出入口が低く段差の小さいバス

手引き

- 出入口の位置の高低やスロープ付きか否かで，「ワンステップバス」「スロープ付き低床バス」などと区別する場合もあるが，それらも含めた,出入口が低く，段差の小さいバスの総称として用いられる場合も多い。
- 「出入口の低いバス」「段差のないバス」などと説明を付与することも考えられる。
- 「ノンステップバス」が採用されているバス路線は増えてきているが，分かりにくいと感じる向きもあるので，言い換えや説明付与が必要な場合も多い。
- 和製語

その他の言い換え語例　低床（ていしょう）バス

【調査データ】

○定着度は中程度だがどちらかといえば低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。

○新聞の頻度はきわめて低く，増減の傾向を見ることはできない。読売新聞では，1997年から2000年頃に頻度が高くなる山を形成しているようにも見える。

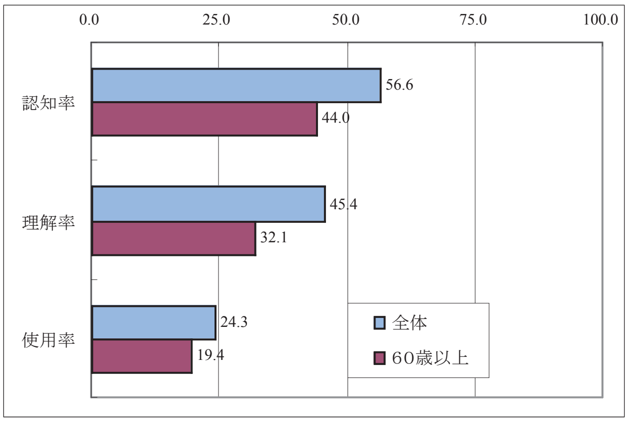

図１　定着度（全体・60歳以上）％

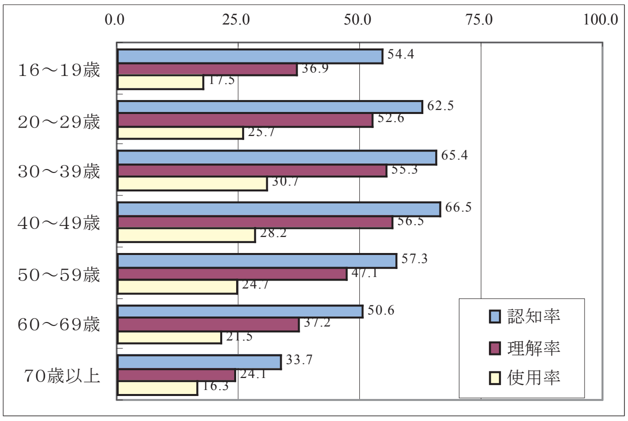

図２　定着度（年齢層別）％

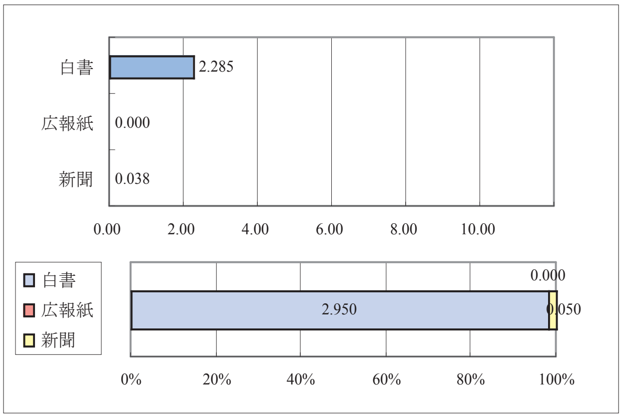

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

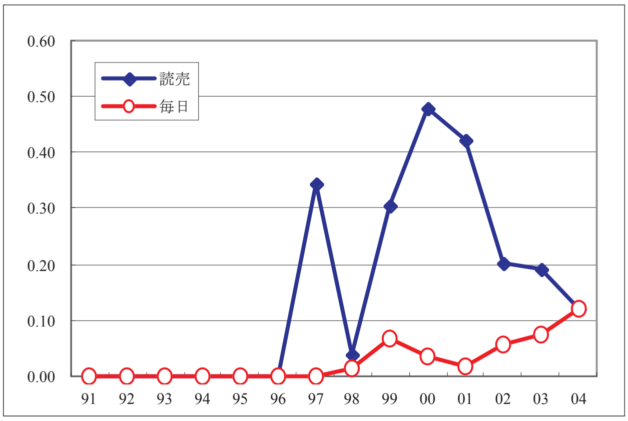

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【背景事情】

○読売新聞で頻度の山をなす時期は，「高齢者，身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（交通バリアフリー法）の制定などの出来事のあった時期であり，公共交通におけるバリアフリーの考え方が普及したと考えられる。

【言い換えの論点】

○言い換え語として一般に使われることのある「低床バス」と，直訳した「無段差バス」との二つの言い換え語の候補の優劣を議論した。「低床」は，なじみが薄く耳で聞いて分かりにくいという難点があるのに対して，「無段差」は意味が明確にイメージできて分かりやすいと考えた。

→参照　バリアフリー

106．バーチャル　virtual

「外来語」言い換え提案（第２回）

	全体	60歳以上
バーチャル	★★☆☆	★☆☆☆

言い換え語　仮想

用例　テレビゲーム，携帯電話の普及などによって，子どもの実生活が分断され，分断された子どもの世界に，バーチャルな（仮想の）世界が侵入してきたのである。

意味説明

現実そっくりに作られ，あたかも現実の世界であるかのような様子

手引き

・英語virtualは，表面上は違うが実質そのものである様子を意味し，「実質上」などと訳されている。外来語「バーチャル」は，現実そっくりではあるが仮想の世界である様子の意味で用いられ，英語と大きくずれた意味で受け入れられており，言い換え語としては「仮想」が適当である。

・「バーチャルな」には，用例に見るように「仮想の」を当てるとよい。

その他の言い換え語例　仮想世界

複合語例

バーチャルモール ＝ 電子商店街

バーチャルリアリティー ＝ 仮想現実　人工現実感

【調査データ】

○定着度は中程度だがどちらかといえば低い。年齢層による差異が大きい。20歳代で高く，60歳代で特に低い。

○公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。

○1996年まで増加した後，減少の方向にある。

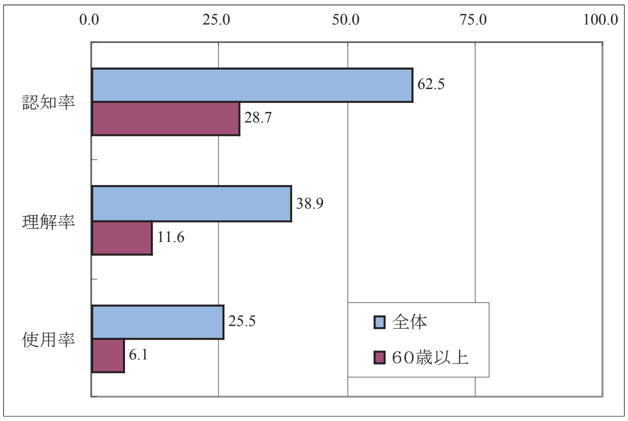

図１　定着度（全体・60歳以上）％

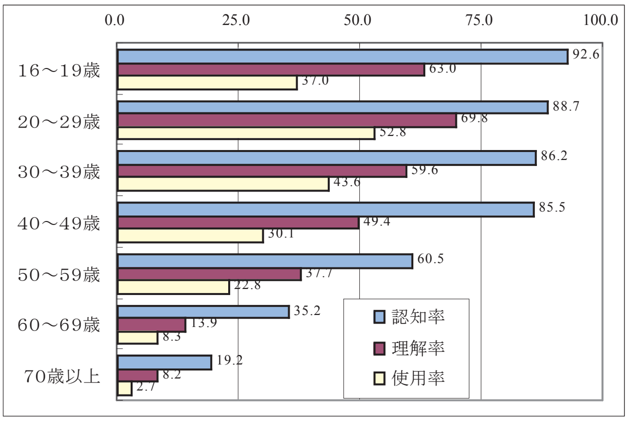

図２　定着度（年齢層別）％

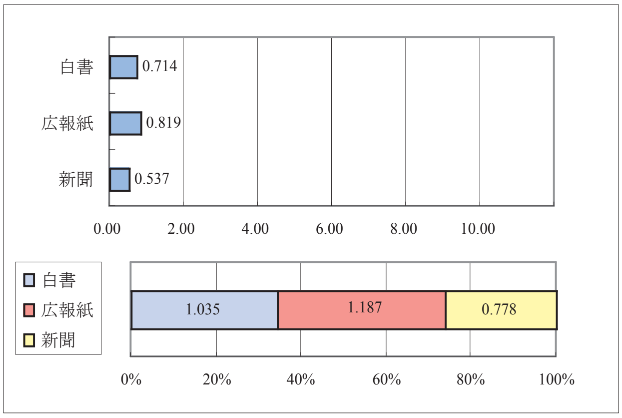

図３　公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

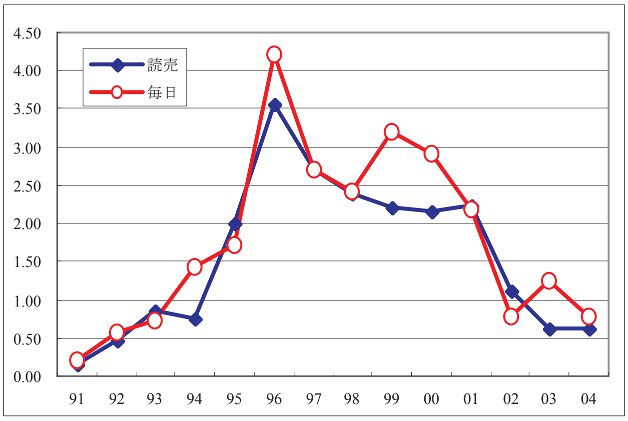

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

【言い換えの論点】

○ 英語virtualは，表面上は違うが実質上のという意味であり，「仮想」と訳すのは反対の意味になるので不適切だという意見が，外部から多数寄せられた。確かに，virtualの意味はこの意見の通りである。しかし，日本語に入った「バーチャル」の用例を観察すると，現実そっくりではあるが仮想である様子の意味で使われるのが一般的であり，外来語の言い換え語としては「仮想」が最適だと考えた。

107. パートナーシップ　partnership

「外来語」言い換え提案（第２回）

パートナーシップ　全体 ★★★☆　60歳以上 ★★☆☆

言い換え語　協力関係

用例
行政とＮＰＯとの間に対等なパートナーシップ（協力関係）が生まれるまでには，県だけでなく市町村も含めた行政の大きな意識転換が必要だ。

意味説明
共同で何かを行うための，対等な協力関係

手引き
- 事業を行うために緊密な協力関係を結ぶ場合など，「提携」という言い換え語が適切になる場合もある。また，企業が共同経営を行う事業体という意味で使われる経済の専門語を一般向けに言い換える場合は，「共同経営体」が分かりやすい。
- 途上国に対する開発援助にかかわる外交分野でも使われるが，その場合，途上国自身が開発の主体であることを意識した取組を指す，「オーナーシップ」（主体性）[⇒27]の語と対になって使われることが多い。
- 定着に向かっている語だと思われ，「パートナーシップ」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし，60歳以上では半数以上が分からない語であり，言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例　提携　共同経営体

【調査データ】

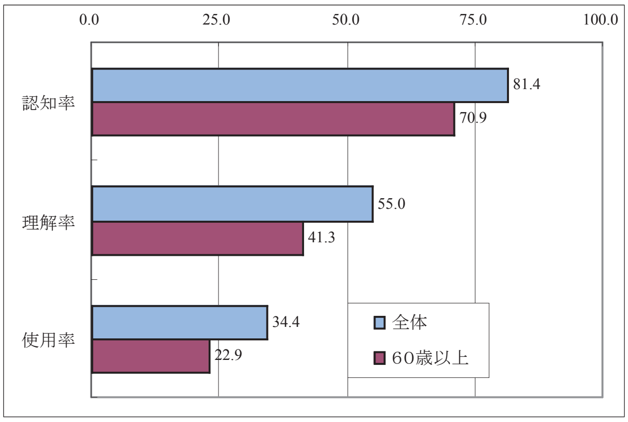

図１　定着度（全体・60歳以上）％

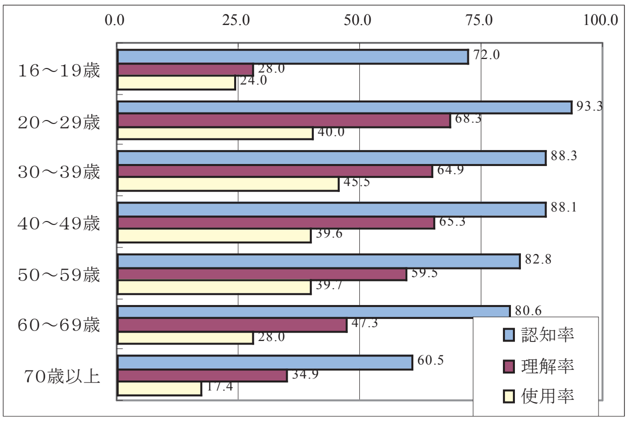

図２　定着度（年齢層別）％

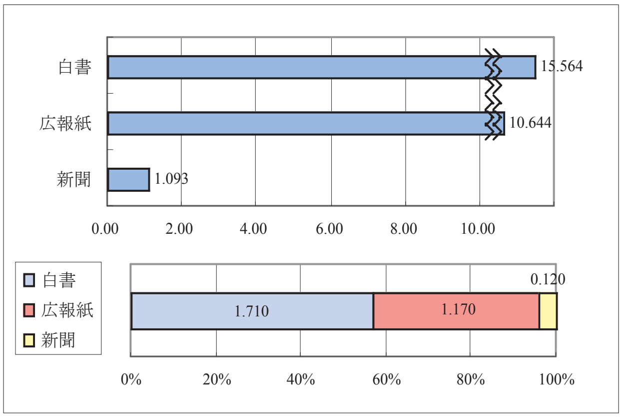

図３　公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

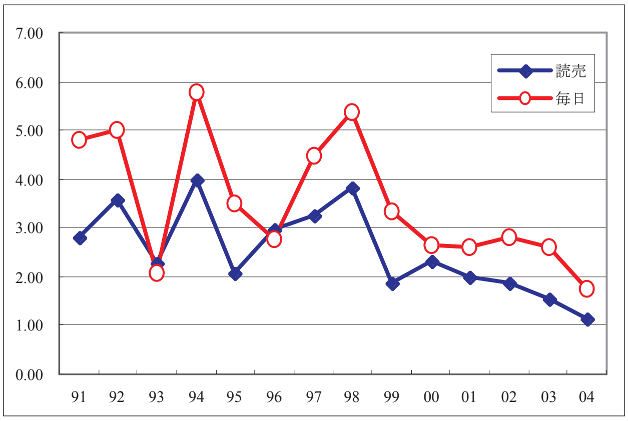

図４　新聞14年間の頻度推移（出現率）

○定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。

○公共媒体における頻度は高い。

○新聞の頻度推移は，全体を通してほぼ横ばいである。2000年以降，若干の減少傾向も見られる。

【言い換えの論点】

○協力関係を意味する場合と，協力関係にある共同経営体を意味する場合とがある。この二つを語義として区別すべきという意見も強かった。しかし，共同経営体は企業どうしの協力関係に基づいて成り立っているので，意味の連続性は明らかで，語義を区分する必要性は高くないと考えた。